

社会福祉学部共通

専門科目



科目名	現代社会と福祉 A	開講時期	1年 前期
担当教員	太田 晴康、鈴木 武幸	単位数	2
テーマ	人間社会の諸相との関連から、福祉や福祉政策の基本的枠組みを理解する。		
授業の概要と目的	社会環境の変化に伴い、福祉専門職が関わる範囲は広がりつつある。他分野との連携も必要となる。それだけに、専門職が自らの寄って立つ基盤をしっかりと保つため福祉の基本的枠組みに関する学習は欠かせない。この授業は、福祉専門職として活動するために体系的な理論を学習し、「福祉とは何か」を理解することが目的となる。		
授業計画	1 オリエンテーションと導入 …………… テキスト「序章」を読んでおく。 2 社会の変化と福祉 ① …………… テキスト「第1章1節～3節」を読んでおく。 3         "         ② …………… テキスト「第1章4節～5節」を読んでおく。 4 福祉と福祉政策 ① …………… テキスト「第2章1節～2節」を読んでおく。 5         "         ② …………… テキスト「第2章3節～4節」を読んでおく。 6 福祉の思想と哲学 ① …………… テキスト「第3章1節」を読んでおく。 7         "         ② …………… テキスト「第3章2節～3節」を読んでおく。 8 社会政策と福祉政策 ① …………… テキスト「第4章1節」を読んでおく。 9         "         ② …………… テキスト「第4章2節～3節」を読んでおく。 10 福祉政策の発展過程 ① …………… テキスト「第5章1節」を読んでおく。 11         "         ② …………… テキスト「第5章2節」を読んでおく。 12 少子高齢化時代の福祉政策 ① …… テキスト「第6章1節」を読んでおく。 13         "         ② …… テキスト「第6章2節」を読んでおく。 14 福祉政策における必要と資源 ① …… テキスト「第7章1節～2節」を読んでおく。 15         "         ② …… テキスト「第7章3節～4節」を読んでおく。 16 期末テスト …………… 国試過去問を活用し理解度を評価する。		
テキスト	社会福祉士養成講座編集委員会編集「新・社会福祉士養成講座第4巻 現代社会と福祉 - 社会福祉原論」中央法規（最新版）。なお、テキストは <b>必ず購入</b> すること。		
参考文献	その都度紹介する。		
成績評価の基準・方法	<b>小テスト等</b> の成績（50%）＋ <b>期末試験</b> の成績（50%）により評価する。なお、指名されたとき準備しておらず回答できない場合は、 <b>最終成績から10点減点</b> する。		
質問・相談の受付方法	基本的にはオフィスアワーを活用し担当教員の研究室で受け付けるが、必要に応じて授業終了後の教室で、もしくは次回の授業で質問ペーパー（メモ）を提出しても良い。		
履修要件	社会福祉士国家試験 <b>受験資格を得るための必須科目</b> であり、相談援助 <b>実習（実習指導を含む）履修の前提科目</b> でもあるので、その点も考慮して履修登録をすること。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	1 テキストは次回の授業で取り上げる範囲を <b>事前に読んでおく</b> ことが必要。その回の授業で <b>アトラダムに指名し回答してもらう</b> ので、必ず事前に準備すること。 2 出欠席は <b>毎回の小テスト等にて確認</b> する。小テスト等は <b>授業終了の10分程度前に実施</b> するが、小テスト等の問題・回答用紙は、授業当日の出席人数を把握した上で <b>小テスト等の実施時間に配布</b> するので、受講生諸君も小テスト等のスムーズな実施に協力してほしい。		

科目名	現代社会と福祉 B	開講時期	1年 後期
担当教員	張 昌鎬、相原 真人	単位数	2
テーマ	前期の学習成果を踏まえ、福祉を構成する諸要素の理解を深める。		
授業の概要と目的	福祉は人間の社会生活全般に関わるため範囲が広く、含まれる要素も多岐にわたる。また社会システムという性格上、法律や制度、国や地方自治体など行政機構とも関連している。この授業は、それらの要素を包括的に理解し、福祉の全体像をイメージできるようにするとともに、国家試験に対応しうる力量をも養うことが目的になる。		
授業計画	1 福祉政策の理念・主体・手法 ① … テキスト「第 8 章 1 節」を読んでおく。 2 “ ” ② … テキスト「第 8 章 2 節～3 節」を読んでおく。 3 福祉政策の関連領域 ① …………… テキスト「第 9 章 1 節～3 節」を読んでおく。 4 “ ” ② …………… テキスト「第 9 章 4 節～6 節」を読んでおく。 5 社会福祉制度の体系 ① …………… テキスト「第 10 章 1 節」を読んでおく。 6 “ ” ② …………… テキスト「第 10 章 2 節」を読んでおく。 7 福祉サービスの提供 ① …………… テキスト「第 11 章 1 節」を読んでおく。 8 “ ” ② …………… テキスト「第 11 章 2 節」を読んでおく。 9 福祉サービスと援助活動 ① …………… テキスト「第 12 章 1 節」を読んでおく。 10 “ ” ② …………… テキスト「第 12 章 2 節」を読んでおく。 11 福祉政策の国際比較 ① …………… テキスト「第 13 章 1 節」を読んでおく。 12 “ ” ② …………… テキスト「第 13 章 2 節」を読んでおく。 13 “ ” ③ …………… テキスト「第 13 章 2 節」を読んでおく。 14 福祉政策の課題と展望 ① …………… テキスト「第 9 章 5 節～6 節」を読んでおく。 15 “ ” ② …………… テキスト「第 9 章 5 節～6 節」を読んでおく。 16 期末テスト …………… 国試過去問等を活用し理解度を評価する。		
テキスト	社会福祉士養成講座編集委員会編集「新・社会福祉士養成講座第 4 巻 現代社会と福祉 - 社会福祉原論」中央法規出版（最新版）。なお、テキストは <b>必ず購入すること</b> 。		
参考文献	その都度紹介する。		
成績評価の基準・方法	<b>小テスト等の成績（50%）＋期末試験の成績（50%）</b> により評価する。なお、指名されたとき準備しておらず回答できない場合は、 <b>最終成績から 10 点減点</b> する。		
質問・相談の受付方法	基本的にはオフィスアワー等を活用し担当教員の研究室で受け付けるが、必要に応じて授業終了後の教室で、もしくは次回授業で質問ペーパー（メモ）を提出しても良い。		
履修要件	社会福祉士国家試験 <b>受験資格を得るための必須科目</b> であり、相談援助 <b>実習（実習指導を含む）履修の前提科目</b> でもあるので、その点も考慮して履修登録をすること。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴 講 生 【可】		
その他	1 テキストは次回の授業で取り上げる範囲を <b>事前に読んでおく</b> ことが必要。その回の授業で <b>アトランダムに指名し回答してもらう</b> ので、必ず事前に準備すること。 2 出欠席は <b>毎回の小テスト等にて確認</b> する。小テスト等は <b>授業終了の 10 分程度前に実施</b> するが、小テスト等の問題・解答用紙等は、授業当日の出席人数を把握した上で <b>小テスト等の実施時間に配布</b> するので、受講生諸君も小テスト等のスムーズな実施に協力して欲しい。		

科目名	社会理論と社会システム	開講時期	1年 後期
担当教員	松下育夫	単位数	2
テーマ	社会システムの視点に立って現代社会を理解する。		
授業の概要と目的	社会システムの視点から、法や経済と社会システムの関係や、その社会変動、人口問題、各種集団、組織を取り上げる。また家族や生活のとらえ方から今日の生活の理解や人と社会の関係、社会問題の理解についても、考察する。適宜小テストを実施する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 社会システム</li> <li>2 法と社会システム</li> <li>3 経済と社会システム</li> <li>4 社会変動</li> <li>5 人口</li> <li>6 地域</li> <li>7 社会集団及び組織</li> <li>8 家族</li> <li>9 生活の捉え方</li> <li>10～13 人と社会の関係</li> <li>14 社会問題の捉え方</li> <li>15 具体的な社会問題</li> </ol>		
テキスト	「社会理論と社会システム」 久美		
参考文献	新・社会福祉士養成講座3「社会理論と社会システム」 中央法規出版		
成績評価の基準・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業中に指示する、レポート課題の提出を、学期末テスト受験の前提とする。</li> <li>・ 学期末の筆記試験で評価する。</li> <li>・ 小テストの状況を見て、10点以内で加点する。</li> </ul>		
質問・相談の受付方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業終了後</li> <li>・ オフィスアワー（後日掲示）を積極的に利用してほしい。</li> <li>・ matsushi@suw.ac.jp に質問、相談をすること。</li> </ul>		
履修要件	特に設けない。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	復習や自主研究を、欠かさず、授業内容を理解すること。		

科目名	心理学理論と心理的支援	開講時期	1年前期
担当教員	櫛木てる子	単位数	2
テーマ	心理学に関する基本的知識を学ぶ		
授業の概要と目的	社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験に出題範囲の心理学の知識を学ぶことを目標とする。そこで教科書に沿って授業が進めていくが、かなり早い授業展開になる。		
授業計画	<p><u>1. 人の心理学的理解</u>  ここでは、①心と脳、②情動・情緒、③欲求・動機づけと行動、④感覚・知覚・認知、⑤学習・記憶・思考、⑥知能・創造性、⑦人格・性格、⑧集団、⑨人と環境、について学ぶ。教科書では第一章に該当する。授業計画では下記の通り6回を予定する。</p> 第1回：1節、2節、4節                      第4回：5節、8節 第2回：3節                                      第5回：9節、10節、11節 第3回：6節、7節                              第6回：12節、13節、14節 <p><u>2. 人の成長と発達</u>  ここでは生涯発達における心理的特徴として、①発達と発達課題、②新生児期、幼児期、児童期の心理、③思春期、青年期の心理、④成人期、高齢期の心理という発達の概念について学ぶ。教科書では第二章に該当する。授業計画では下記の3回を予定する。</p> 第7回：1節、2節、3節1                      第9回：3節7-9 第8回：3節2-6 <p><u>3. 日常生活と心の健康・人の心理学的理解</u>  ここでは①適応 ②ストレスとストレッサーについて学ぶ。教科書では第三章に該当する。授業計画では下記の2回を予定する。</p> 第10回：1節、3節 第11回：2節、3節 <p><u>4. 心理的支援の方法と実際</u>  ここでは、①心理検査の概要、②カウンセリングの概念と範囲、③カウンセリングとソーシャルワークとの関係、④心理療法の概要と実際について学ぶ。教科書では第4章に該当する。授業計画では下記の3回を予定する。</p> 第12回：1節、2節                              第14回：4節、5節 第13回：2節、3節第                              第15回：5節、6節		
テキスト	社会福祉学習双書11巻「心理学－心理学理論と心理的支援」 全国社会福祉協議会出版部		
参考文献	適宜、紹介する。		
成績評価の基準・方法	定期試験80、授業態度20で評価を行う		
質問・相談の受付方法	授業終了後に教室で受け付けます。		
履修要件	なし		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他			

科目名	人体の構造と機能及び疾病	開講時期	1年 前期
担当教員	飯嶋 重雄	単位数	2
テーマ	人体の基本的な構造と仕組み、および関連した疾患について理解を深める。		
授業の概要と目的	<p>人の健康は、身体の様々な器官が活動して成り立っている。心身の健康、福祉に関わる職につくに当たり、人体の構造と機能、関連した疾患を学び理解することは重要である。ここでは、人の成長・発達過程、人体の基本的な構造と仕組み、代表的な疾患、およびリハビリテーションについて講義する。</p> <p>身体の基本的な構造と機能、心身の疾病の概要について習得することを目的とする。</p>		
授業計画	<p>第1回 人の成長・発達と老化</p> <p>第2回 身体部位の名称</p> <p>第3回 血液・造血系、循環器の構造と機能</p> <p>第4回 泌尿器系、呼吸器系の構造と機能</p> <p>第5回 消化器系の構造と機能</p> <p>第6回 神経系、内分泌系の構造と機能</p> <p>第7回 皮膚、筋骨格系、生殖器系の構造と機能</p> <p>第8回 生活習慣病、悪性腫瘍、脳血管疾患</p> <p>第9回 心疾患、高血圧、糖尿病・内分泌疾患</p> <p>第10回 呼吸器疾患、消化器疾患</p> <p>第11回 血液疾患と膠原病、腎臓疾患、泌尿器系疾患</p> <p>第12回 骨関節疾患、目・耳の疾患、感染症</p> <p>第13回 神経疾患と難病、先天性疾患、その他高齢者に多い疾患</p> <p>第14回 障害の概要、リハビリテーションの概要</p> <p>第15回 国際生活機能分類（ICF）の概要</p>		
テキスト	新・社会福祉士養成講座 1 人体の構造と機能及び疾病（中央法規）		
参考文献	カラー版徹底図解からだのしくみ（新星出版社）		
成績評価の基準・方法	定期試験：80% 出席率・授業態度：20%		
質問・相談の受付方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究室在室中は随時（金曜日は不在）</li> <li>・メールも可</li> </ul>		
履修要件	特に設けない。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	パワーポイントを使い、できるだけわかりやすい講義を心がけます。		

科目名	社会調査の基礎	開講時期	3年 前期
担当教員	岩本 勇	単位数	2
テーマ	社会調査法の基礎知識		
授業の概要と目的	<p>社会調査とは、社会あるいは社会事象に関して、客観的な知識を得るための技法である。本講義では福祉領域、いわゆる社会福祉調査法について教授する。わが国では社会福祉領域の発展に伴い、その重要性がますます高まっている。社会福祉の実践者となる者は、社会の諸問題を発見するための調査技法を身に付け、社会調査法を用いた様々な情報を正しく理解する技術が必要である。</p> <p>本講義は、社会調査の意義と目的及び方法を概説し、統計法の概要、社会調査における倫理や個人情報保護、量的、質的調査方法の理解を目的とする。</p>		
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 ガイダンス</li> <li>2 社会福祉と社会調査</li> <li>3 社会調査の概要</li> <li>4 量的調査の方法①</li> <li>5 量的調査の方法②</li> <li>6 量的調査の方法③</li> <li>7 量的調査の方法④</li> <li>8 質的調査の方法①</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>9 質的調査の方法②</li> <li>10 質的調査の方法③</li> <li>11 質的調査の方法④</li> <li>12 社会調査における倫理と個人情報保護</li> <li>13 社会調査の実施にあたっての IT の活用方法</li> <li>14 社会科学としての社会福祉</li> <li>15 授業の総括</li> </ul>	
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会福祉士養成講座編集委員会 編集 『社会調査の基礎』 中央法規</li> </ul>		
参考文献	講義中適宜紹介する		
成績評価の基準・方法	<p>授業での講義内容の理解、その知識を学生自らの経験の中で消化する応用力、そしてその考えを小テストで表現する文章表現力によって、成績評価を行なう。小テストの採点結果は次の授業で学生の皆さんに報告する。前期小テストの評価基準は、文字量 20%、アウトライン 20%、テクニカルターム 20%、主旨 20%、丁寧さ 20%。質問欄の内容によって適宜加点。最終評価は、小テスト 40%、質問加点 20%、期末試験 40%とする。</p>		
質問・相談の受付方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小テスト票の質問欄に記載があれば、次回の講義内で回答</li> <li>・ 月曜を除く時間帯に研究室（研究室棟 203 号）にて、不在の場合は携帯電話、又は次のアドレスでも受け付ける（iwamoto@suw.ac.jp）</li> </ul>		
履修要件	特に設けない		
特別学生の履修の可否	<ul style="list-style-type: none"> <li>科目等履修生【可】</li> <li>聴講生【可】</li> </ul>		
その他	<p>学生の皆さんが楽しく、そして解りやすい授業を展開するよう努めます。そのために学生の皆さんとの情報交換を大切にしていきます。</p>		

科目名	相談援助の基盤と専門職 A	開講時期	1年 前期
担当教員	張 昌鎬	単位数	2
テーマ	相談援助の基礎を学ぶ		
授業の概要と目的	1. 社会福祉士に必要な相談援助の概念、範囲、理念について理解する。 2. 相談援助に係る専門職として、専門職の概念と範囲、倫理(倫理綱領を含む)について理解する。 3. 社会福祉士の役割として総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解する。 ※ 少なくとも2回授業に1回は小テストを実施する。		
授業計画	第1回 社会福祉における相談援助の基盤と専門職の位置(第1部、第1章、1節) 第2回 総合的かつ包括的な相談援助が求められる背景と動向(1部、1章、2節) 第3回 相談援助の基本概念、ソーシャルワークの概念(定義)(1部、2章、1・2節) 第4回 ソーシャルワークの構成要素、4つの総体(1部、2章、3節) 第5回 ソーシャルワークの構成要素、11のP(1部、2章、3節) 第6回 相談援助の発展過程Ⅰ、ソーシャルワークの源流・前史イギリス(3章、1節) 第7回 相談援助の発展過程Ⅰ、アメリカにおける発展(3章、1節) 第8回 ソーシャルワークの基礎確立期(3章、2節) 第9回 ソーシャルワークの発展期—1940年代～1950年代なかば—(4章、1節) 第10回 ソーシャルワークの展開—1950年代なかば～1940年代(4章、2節) 第11回 ソーシャルワークへの批判(新たなあゆみ)(4章、3節-1、2) 第12回 ソーシャルワークへの批判(新たなあゆみ)(4章、3節3、4) 第13回 ソーシャルワークへの批判(新たなあゆみ)(4章、3節5、6) 第14回 相談援助専門職の概念(専門職とは、専門職の成立要件)(5章、1節) 第15回 前期のまとめと質疑応答		
テキスト	全国社会福祉協議会社会福祉学習双書編集委員会『社会福祉援助技術論Ⅰ—相談援助の基盤と専門職』2011年		
参考文献	講義中紹介する。		
成績評価の基準・方法	小テストと学期末レポート(配点 50:50) 無断欠席1回につき1点減点		
質問・相談の受付方法	講義終了後あるいはオフィスアワーを利用する。		
履修要件	なし		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	積極的な質問を歓迎します。		

科目名	相談援助の基盤と専門職 B	開講時期	1年 後期
担当教員	張 昌鎬	単位数	2
テーマ	社会福祉士の基本的性格、相談援助の価値基盤、ソーシャルワーク倫理綱領、ジェネラルリスト・ソーシャルワークを学ぶ。		
授業の概要と目的	1. 相談援助における環境との相互作用に関する理論について理解する。 2. 相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。 3. 相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する。 ※ 少なくとも2回授業に1回は小テストを実施する。		
授業計画	第1回 相談援助専門職の範囲 (第5章、第2節) 第2回 ソーシャルワークの職域拡大に向けて (第5章、第3節) 第3回 社会福祉士の基本的性格と役割 (第6章、第1節の1、2) 第4回 社会福祉士の基本的性格と役割 (第6章、第1節の3) 第5回 社会福祉士の専門性・精神保健福祉士と協働・今後(第6章、第2、3節) 第6回 相談援助の価値基盤: 価値・倫理がもつ意味(第7章、第1節の1) 第7回 ソーシャルワークの専門職として、人が人を支援することのもつ意味、 ソーシャルワーク実践における価値・倫理の位置づけ(第7章1節の2,3) 第8回 ソーシャルワークにおける価値の構成要素、共通価値(第7章2節の1) 第9回 利用者本位の価値観、バリエーションの7つの原則、社会的包摂、権利擁護、 社会正義(第7章2節の1、2) 第10回 専門職倫理と倫理的ジレンマ、専門職倫理の概念 (第8章1節) 第11回 倫理綱領の意義と具体的内容 (第8章2節) 第12回 ソーシャルワーク実践と倫理的ジレンマとその対処(第8章3節) 第13回 ソーシャルワークの統合化とジェネラルリスト・ソーシャルワークの 成立(第9章1、2節) 第14回 ジェネラルリスト・ソーシャルワークの特質(第9章3節) 第15回 後期のまとめ (後期のまとめと質疑応答)		
テキスト	全国社会福祉協議会社会福祉学習双書編集委員会『社会福祉援助技術論Ⅰ－相談援助の基盤と専門職』2011年		
参考文献	講義中紹介する。		
成績評価の基準・方法	小テストと学期末レポート(配点 50:50) 無断欠席1回につき1点減点		
質問・相談の受付方法	講義終了後あるいはオフィスアワーを利用する。		
履修要件	なし		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	積極的な質問を歓迎します。		

科目名	相談援助の理論と方法 A	開講時期	2年 前期
担当教員	張 昌鎬	単位数	2
テーマ	相談援助の発展、対象、モデル、過程、技法を学ぶ。		
授業の概要と目的	1. 相談援助における環境との相互作用に関する理論について理解する。 2. 相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。 3. 相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する。 ※ 少なくとも2回授業に1回は小テストを実施する。		
授業計画	第1回 社会福祉の中で、相談援助の理論と方法 A の位置、相談援助活動の理論の発展、人と環境の相互作用 (第1章 第1節) 第2回 相談援助技術体系の発展、ソーシャルワーク実践理論、1950年代以前の実践理論と1950年代の実践理論 (第1章 第2節の1、2、3) 第3回 相談援助技術体系の発展、1960年代の実践理論と1970年代の実践理論 (第1章 第2節の4、5) 第4回 相談援助技術体系の発展、1980年代・1990年代・2000年代の実践理論と今後展望と課題 (第1章 第2節の6、7、8、9) 第5回 システム思考に基づくジェネリックな援助理論 (第1章 第3節) 第6回 相談援助の対象の概念、相談援助の対象の発見 (第2章 第1節) 第7回 相談援助の対象の概念と範囲 (第2章 第2節の1、2、3) 第8回 生活問題をとらえる視点、相談援助の分野 (第2章 2節の4、5、6) 第9回 個人・家族、グループ、地域との相談援助の視点 (第2章 3節) 第10回 相談援助の実践モデルとアプローチ、焦点化と視点 (第3章 第1節) 第11回 ソーシャルワークの3つの方法、ケースワーク (第3章 第2節の1、2) 第12回 診断主義ケースワーク、機能主義ケースワーク (第3章 第2節の3、4) 第13回 行動変容ケースワーク、問題解決ケースワーク (第3章 第2節の5、6) 第14回 ソーシャルワーク実践のモデル (第3章 第3節) 第15回 前期のまとめと質疑応答		
テキスト	全国社会福祉協議会社会福祉学習双書編集委員会『社会福祉援助技術論Ⅱ－相談援助の理論と方法』2011年		
参考文献	講義中紹介する。		
成績評価の基準・方法	小テストと学期末レポート(配点 50 : 50) 無断欠席1回につき1点減点		
質問・相談の受付方法	講義終了後あるいはオフィスアワーを利用する。		
履修要件	なし		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	積極的な質問を歓迎する。		

科目名	相談援助の理論と方法 B	開講時期	2年 後期
担当教員	張 昌鎬	単位数	2
テーマ	相談援助の発展、対象、モデル、過程、技法の学習		
授業の概要と目的	1. 相談援助における環境との相互作用に関する理論について理解する。 2. 相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。 3. 相談援助の過程とそれに係る知識と技術について理解する。 ※ 少なくとも2回授業に1回は小テストを実施する。		
授業計画	第1回 相談援助活動の全体像、相談援助活動の枠組み (第4章 第1節) 第2回 相談援助過程の概観、相談援助過程の意義、目的、体系 (第4章 第2節) 第3回 インテーク、意義・目的、内容、方法、必要なスキル (第4章 第3節) 第4回 アセスメント、意義・目的、内容、方法、必要なスキル (第4章 第4節) 第5回 援助計画、意義・目的、内容、方法、必要なスキル、介護保険法・障害者自立支援法によるプランニングの実際 (第4章 第5節) 第6回 支援の実施、モニタリングと評価、再アセスメント (第4章 第6、7節) 第7回 相談援助の終結と効果測定、フォローアップ (第4章 第8、9節) 第8回 相談援助における援助関係、援助関係の意義と概念 (第5章 第1節) 第9回 援助関係の形成と方法、コミュニケーションとウポール、援助者の持つべき原則 (第5章 第2節の1、2) 第10回 援助関係の原則、援助者として求められるもの (第5章 第2節の3、4) 第11回 援助のための基本方法、コミュニケーション技法 (第6章 第1節) 第12回 援助のための基本方法、面接技法 (第6章 第2節) 第13回 援助のための基本方法、観察技法 (第6章 第3節) 第14回 援助のための基本方法、マッピング技法、効果測定 (第6章 第4、5節) 第15回 後期のまとめ (後期のまとめと質疑応答)		
テキスト	全国社会福祉協議会社会福祉学習双書編集委員会『社会福祉援助技術論Ⅱ－相談援助の理論と方法』2011年		
参考文献	講義中紹介する。		
成績評価の基準・方法	小テストと学期末レポート(配点 50:50) 無断欠席1回につき1点減点		
質問・相談の受付方法	講義終了後あるいはオフィスアワーを利用する。		
履修要件	なし		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	積極的な質問を歓迎します。		

科目名	相談援助の理論と方法C	開講時期	3年 前期
担当教員	鈴木武幸	単位数	2
テーマ	実習・演習の科目に連動した「実践能力」を身につけるための理論と方法を学ぶ		
授業の概要と目的	相談援助の対象者であるクライアントの相談に応じ、ソーシャルワークの業務についての内容を理論的に習得することを目的とする。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、 相談援助における対象の理解、概念と定義</li> <li>2、 相談援助の対象をどうとらえるか</li> <li>3、 ケースマネジメント（ケアマネジメント）の基本・概念</li> <li>4、 ケースマネジメントにおけるアセスメントの目的・意義</li> <li>5、 ケアプランを用いたケースマネジメント（実践課程と方法）</li> <li>6、 グループを活用した相談援助Ⅰ、グループワークの特徴</li> <li>7、 グループを活用した相談援助Ⅱ、原則と過程</li> <li>8、 コーディネーションとネットワーキングⅠ、社会資源</li> <li>9、 コーディネーションとネットワーキングⅡ、方法と留意点</li> <li>10、 相談援助における社会資源の活用・調整・開発Ⅰ</li> <li>11、 相談援助における社会資源の活用・調整・開発Ⅱ</li> <li>12、 さまざまな実践モデルとアプローチⅠの1、（実践モデルとその意味）</li> <li>13、 さまざまな実践モデルとアプローチⅠの2、（三つのモデル）</li> <li>14、 さまざまな実践モデルとアプローチⅠの3、（ジェネラリスト・ソーシャルワーク）</li> <li>15、 授業の総括</li> </ol>		
テキスト	「社会福祉学習双書」編集委員会編 社会福祉援助技術論Ⅱ 相談援助の理論と方法 （2年生で使用した教科書をそのまま使用する）		
参考文献	「社会保障の手引き」中央法規		
成績評価の基準・方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 適宜授業内で行う質疑に答えること（30%）</li> <li>② 学習態度・意欲及び章別行う小テスト・レポート等（30%）</li> <li>③ 授業の総括等を提出すること（40%）</li> </ol> 12, 13, 14 講については、資料等を提供する。		
質問・相談の受付方法	授業内で適宜、質問相談に応ずる。		
履修要件			
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	社会福祉六法等使用する場合がある。		

科目名	相談援助の理論と方法D	開講時期	3年 後期
担当教員	鈴木武幸	単位数	2
テーマ	実習・演習の科目に連動した「実践能力」を身につけるための理論と方法を学ぶ		
授業の概要と目的	引き続き、相談援助の対象者であるクライアントの相談に応じ、ソーシャルワークの業務についての内容を理論的に習得することを目的とする。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1、 さまざまな実践モデルとアプローチⅡの1、(心理社会的アプローチ～)</li> <li>2、 さまざまな実践モデルとアプローチⅡの2、(問題解決アプローチ～)</li> <li>3、 さまざまな実践モデルとアプローチⅡの3、(危機介入アプローチ～)</li> <li>4、 さまざまな実践モデルとアプローチⅢの1、(エンパワメントアプローチ～)</li> <li>5、 さまざまな実践モデルとアプローチⅢの2、(その他の実践アプローチ)</li> <li>6、 スーパービジョンとコンサルテーションⅠ、Sの意義と目的</li> <li>7、 スーパービジョンとコンサルテーションⅡ、Cの意義と目的</li> <li>8、 相談援助における記録、意義と目的、記録の種類と方法</li> <li>9、 相談援助における個人情報保護</li> <li>10、 相談援助における情報通信技術(ICT)の活用</li> <li>11、 事例分析の意義と方法、事例</li> <li>12、 事例分析の方法、記録</li> <li>13、 相談援助活動の実際Ⅰ(事例)</li> <li>14、 相談援助活動の実際Ⅱ(事例)</li> <li>15、 授業の総括</li> </ol>		
テキスト	「社会福祉学習双書」編集委員会編 社会福祉援助技術論Ⅱ 相談援助の理論と方法 (2年生で使用した教科書をそのまま使用する)		
参考文献	「社会保障の手引き」中央法規		
成績評価の基準・方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 適宜授業内で行う質疑に答えること (30%)</li> <li>② 学習態度・意欲及び章別行う小テスト・レポート等 (30%)</li> <li>③ 授業の総括等を提出すること (40%)</li> </ol>		
質問・相談の受付方法	授業内で適宜、質問相談に応ずる。		
履修要件	相談援助の理論と方法Cを前期で履修すること		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	社会福祉六法等使用する場合がある。		

科目名	地域福祉の理論と方法 A	開講時期	2年 前期
担当教員	清水将一	単位数	2
テーマ	地域福祉の基礎的理解を深める		
授業の概要と目的	<p>社会福祉法第 4 条に示された「地域福祉の推進」を具現化するために学ぶべき理論と方法のうち、基礎となる考え方や実践について講義する。          特にテキストの前半部分を中心とした講義になる。          ほぼ毎回授業前にテキストから小テストを実施する。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域福祉の発展過程・新しい福祉としての地域福祉</li> <li>2. 福祉サービスシステムとしての地域福祉・地域福祉の主体</li> <li>3. 地域福祉理論の発展・地域福祉の理念</li> <li>4. 地域のとらえ方・コミュニティ型組織とアソシエーション型組織</li> <li>5. 地域福祉と福祉教育・福祉教育の概念と内容</li> <li>6. 福祉教育の現状と課題※</li> <li>7. 地方分権と地域福祉計画・社会福祉協議会</li> <li>8. 社会福祉法人と特定非営利活動法人・ボランティア</li> <li>9. 民生委員・福祉コミュニティビジネスと企業の社会貢献</li> <li>10. コミュニティソーシャルワークの考え方</li> <li>11. コミュニティソーシャルワークの展開と方法</li> <li>12. チームアプローチとコミュニティソーシャルワーク</li> <li>13. 専門職と住民の関係・ボランティアセンター・当事者組織</li> <li>14. 住民の参加と方法</li> <li>15. 住民参加とボランティア※</li> </ol> <p>※はテキストの範囲以外のため予習は不要。</p>		
テキスト	新・社会福祉士養成講座第 9 巻 地域福祉の理論と方法—地域福祉論 (中央法規出版)		
参考文献	岡村重夫「地域福祉論」光生館 福祉六法		
成績評価の基準・方法	小テスト (不定期) 40点 本テスト (学期末) 60点 無断欠席をしないこと。(3回以上の受講生は減点の対象とする。)		
質問・相談の受付方法	オフィスアワー (後日掲示) を利用してください。 オフィスアワー以外でも先約があれば研究室 (310) で受け付ける。		
履修要件			
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴 講 生 【可】		
その他	<p>社会福祉実践は権利侵害の予防を含めた回復の仕事である。社会福祉を学ぶ学生が他の学生の学ぶ権利を私語等で侵害することがあってはならない。このことに同意した学生のみ受講を認める。</p> <p>なお授業計画は基本的にテキストに沿っているので、該当する箇所を事前に読んでおき小テストに備えること。</p>		

科目名	地域福祉の理論と方法 B	開講時期	2年 後期
担当教員	清水将一	単位数	2
テーマ	地域福祉の実践的理解を深める。		
授業の概要と目的	<p>社会福祉法第 4 条に示された「地域福祉の推進」を具現化するために学ぶべき理論と方法のうち、コミュニティワークに関する考え方や実践について講義する。特に、テキストの後半部分を中心とした講義になる。</p> <p>ほぼ毎回授業前にテキストおよび国試過去問から小テストを実施する。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ソーシャルサポートネットワークの考え方とコミュニティソーシャルワーク</li> <li>2. 社会資源の概要と活用法及びコーディネート</li> <li>3. 福祉サービスの開発と助成金</li> <li>4. 福祉でまちづくりとソーシャルアクション</li> <li>5. アウトリーチの意義・質的及び量的ニーズ把握方法と実際</li> <li>6. 地域トータルケアシステムと展開方法</li> <li>7. 地域トータルケアシステムの事例及びソーシャルケア従事者の研修と組織化</li> <li>8. 福祉サービス評価の背景と考え方</li> <li>9. 福祉サービスの評価の方法と実際・プログラム評価とその展開</li> <li>10. イギリス・アメリカの地域福祉</li> <li>11. コミュニティワークの歴史・社会福祉に関する組織団体等（国試過去問）</li> <li>12. 住民参加の意義・主体と対象・社会福祉法・民生委員等（国試過去問）</li> <li>13. 共同募金・ボランティア・生活協同組合（国試過去問）</li> <li>14. 専門職や地域住民の役割と実際・NPO・福祉計画（国試過去問）</li> <li>15. 阪神淡路大震災と地域福祉</li> </ol>		
テキスト	<p>新・社会福祉士養成講座第 9 巻 地域福祉の理論と方法—地域福祉論  （中央法規出版）</p>		
参考文献	講義中適宜紹介する。		
成績評価の基準・方法	<p>小テスト（ほぼ毎回） 40点  本テスト（学期末） 60点  無断欠席をしないこと。（3回以上の受講生は減点の対象とする。）</p>		
質問・相談の受付方法	<p>オフィスアワー（後日掲示）を利用してください。  オフィスアワー以外でも先約がなければ研究室（310）で受け付ける。</p>		
履修要件	地域福祉の理論と方法 A を履修中または履修済みであること。		
特別学生の履修の可否	<p>科目等履修生【可】  聴講生【可】</p>		
その他	<p>社会福祉実践は権利侵害の予防を含めた回復の仕事である。社会福祉を学ぶ学生が他の学生の学ぶ権利を私語等で侵害することがあってはならない。このことに同意した学生のみ受講を認める。</p> <p>なお授業計画は基本的にテキストに沿っているので、該当する箇所を事前に読んでおき小テストに備えること。</p>		

科目名	福祉行財政と福祉計画	開講時期	3年 後期
担当教員	清水将一	単位数	2
テーマ	福祉の行財政及び福祉計画の基礎を理解する		
授業の概要と目的	<p>福祉行財政の実施体制、財源、組織・団体等について講義するとともに、福祉計画の意義、策定過程における課題等について講義する。</p> <p>ほぼ毎回授業前に国試過去問から小テストを実施し国試対策にも対応する。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国及び市町村の役割</li> <li>2. 国と地方との関係</li> <li>3. 福祉の財源</li> <li>4. 国と地方の財源および民間財源</li> <li>5. 福祉行政の組織</li> <li>6. 行政機関の種類と役割</li> <li>7. 福祉行政における専門職の役割</li> <li>8. 福祉の法制度（社会福祉法を中心に）</li> <li>9. 福祉計画の主体・種類</li> <li>10. 福祉計画の策定方法と留意点</li> <li>11. 福祉計画策定過程における技法</li> <li>12. 福祉計画策定におけるニーズ把握</li> <li>13. 福祉計画策定における問題分析・合意形成</li> <li>14. 福祉計画策定における住民参加</li> <li>15. 福祉計画の実際と評価</li> </ol>		
テキスト	<p>新・社会福祉士養成講座第10巻 福祉行財政と福祉計画 (中央法規出版)</p>		
参考文献	福祉六法		
成績評価の基準・方法	<p>小テスト（不定期） 40点 本テスト（学期末） 60点 無断欠席をしないこと。（3回以上の受講生は減点の対象とする。）</p>		
質問・相談の受付方法	<p>オフィスアワー（後日掲示）を利用してください。 オフィスアワー以外でも先約がなければ研究室（310）で受け付ける。</p>		
履修要件			
特別学生の履修の可否	<p>科目等履修生【可】 聴講生【可】</p>		
その他	<p>社会福祉実践は権利侵害の予防を含めた回復の仕事である。社会福祉を学ぶ学生が他の学生の学ぶ権利を私語等で侵害することがあってはならない。このことに同意した学生のみ受講を認める。</p> <p>なお授業計画は基本的にテキストに沿っているので、該当する箇所を事前に読んでおき小テストに備えること。</p>		

科目名	福祉サービスの組織と経営	開講時期	3年 前期
担当教員	奈良修三	単位数	2
テーマ	福祉サービスの組織の運営経営の基礎を学び、組織の主体者となる資質を養う		
授業の概要と目的	<p>&lt;目的&gt;</p> <p>社会福祉分野では多様な経営主体が創出されており、それぞれの組織についての学びを通しながら、利用者の視点、職員の視点をポイントに運営、経営のあり方を理解する。</p> <p>&lt;概要&gt;</p> <p>実際の施設経営・運営の内容を例示しながら、講義を進める。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 福祉サービス組織の歴史、役割について学ぶ</li> <li>2. 福祉サービスの組織の体系と制度について学ぶ</li> <li>3. 社会福祉法人・NPO 法人他多様な組織について学ぶ</li> <li>4. 福祉サービス組織の経営に係る基礎理論について学ぶ</li> <li>5. 福祉サービス組織の管理運営について学ぶ</li> <li>6. 組織における「個」と「集団」との構造や関係性について学ぶ</li> <li>7. リーダーシップの基礎理論について学ぶ</li> <li>8. 組織運営と経営の実際を学ぶ</li> <li>9. 人事管理・人材確保の実態と養成プログラムについて学ぶ</li> <li>10. 社会福祉法人や NPO 法人等の非営利組織、株式会社等の営利法人の財源問題について学ぶ</li> <li>11. 福祉サービス組織の収支バランスの実際を学ぶ</li> <li>12. 福祉サービス組織のコンプライアンス、ガバナンスについて学ぶ</li> <li>13. 適切なサービスマネジメント・危機管理の実際を学ぶ（苦情や事故対応など）</li> <li>14. 福祉サービス組織の建物・設備環境を学ぶ</li> <li>15. 福祉サービス組織の経営と運営の戦略を考える</li> </ol>		
テキスト	・「福祉サービスの組織と経営」（弘文堂）		
参考文献	・講義中適宜紹介する		
成績評価の基準・方法	・毎回、講義終了後の感想文（10 分程度で書ける程度）と後半期の小テストを実施する。（配点 30：70）。		
質問・相談の受付方法	・講義終了後、教室あるいは講師控室（研究室棟 1 階）で受け付ける。		
履修要件	・特に設けない		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	・常にサービスを利用する立場、サービスを提供する現場の職員の立場になって組織の経営や運営を考えることのできる内容にしたいと思います。率直な意見を歓迎します。		

科目名	社会保障A	開講時期	2年 前期
担当教員	松下 育夫	単位数	2
テーマ	社会保障の総論を学ぶ。		
授業の概要と目的	<p>社会保障の理念をこれまでの制度の歴史を踏まえて学び、また概念内容や、その範囲を諸外国と比較して、その成り立ちから検討し、明らかにする。</p> <p>さらに、今日の日本の社会保障制度の体系を大枠で把握し、財源や費用等を含めて制度の概要を理解する。</p>		
授業計画	<p>1～3 現代社会における社会保障制度の課題</p> <p>4～7 社会保障の概念や対象及び理念</p> <p>8～10 社会保障の財源と費用</p> <p>11～12 社会保険と社会扶助の関係</p> <p>13～15 公的保険制度と民間保険の現状</p>		
テキスト	新・社会福祉士養成講座 12巻 「社会保障」 第2版 中央法規		
参考文献	講義中適宜紹介する。		
成績評価の基準・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学年末の筆記試験で評価する。</li> <li>・ 小テストの状況を見て、10点以内の加算をする。</li> </ul>		
質問・相談の受付方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オフィスアワー（後日掲示）を積極的に利用してください。</li> <li>・ matsushi@suw.ac.jp に質問、相談を寄せてください。</li> </ul>		
履修要件	特に設けない。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予習、復習及び自主研究が欠かせない。</li> <li>・ 積極的に、質問し1回目ごとに完全な理解をすること。</li> </ul>		

科目名	社会保障B	開講時期	2年 後期
担当教員	松下 育夫	単位数	2
テーマ	社会保障制度の各論を、学ぶ。		
授業の概要と目的	我が国の社会保障制度の各論として、年金保険、医療保険、労災保険、雇用保険の概要や具体的内容を検討していく。		
授業計画	<p>1～7 社会保障制度の体系（労働保険を含む）</p> <p>8～10 年金保険制度の具体的内容</p> <p>11～13 医療保険制度の具体的内容</p> <p>14～15 先進諸国における社会保障制度の概要</p>		
テキスト	新・社会福祉士養成講座 12巻 「社会保障」 第2版 中央法規		
参考文献	講義中適宜紹介する。		
成績評価の基準・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学期末の筆記試験で評価する。</li> <li>・ 小テストの状況を見て、10以内で加点する。</li> </ul>		
質問・相談の受付方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オフィスアワーを積極的に利用して下さい。</li> <li>・ matsushi@suw.ac.jp に質問、相談を寄せてください。</li> </ul>		
履修要件	特に設けない。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予習、復習及び自主研究が欠かせない</li> <li>・ 積極的に、質問し1回目ごとに完全な理解をすること。</li> </ul>		

科目名	高齢者福祉サービス	開講時期	2年 前期
担当教員	佐々木 隆志	単位数	2
テーマ	高齢者を取りまく状況や福祉についての理解を深める		
授業の概要と目的	高齢者をめぐる社会の動向、高齢者の生活についての認識を深める。 高齢者福祉の歴史、現行の法・制度、具体的サービスについての基本的理解、知識の習得をめざす。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者と現代社会</li> <li>2. 高齢者の特性</li> <li>3. 少子高齢社会の実像と課題</li> <li>4. 高齢者の生活実態と福祉ニーズ</li> <li>5. 高齢者福祉の歴史的展開</li> <li>6. 高齢者福祉の法・体系</li> <li>7. 高齢者福祉の施策の動向</li> <li>8. 老人福祉法の目的、概要</li> <li>9. 介護保険制度の目的、基本的しくみ</li> <li>10. 高齢者と医療、保健</li> <li>11. 高齢者と医療保険のしくみ</li> <li>12. 高齢者に関する諸法規（公的扶助、生きがい対策など）</li> <li>13. 高齢者の権利擁護制度の背景</li> <li>14. 高齢者の権利擁護のしくみと利用方法</li> <li>15. 今後の高齢者福祉の課題と展望</li> </ol>		
テキスト	新・社会福祉士養成講座 第13巻『高齢者に対する支援と介護保険制度』中央法規出版 プリント配布		
参考文献	授業中の適宜紹介する。		
成績評価の基準・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験8割、授業内で提出する課題及び小レポート・講義の取組み姿勢2割を基準として評価する。</li> <li>・上記方法は、授業開始時アナウンスし、実施方法は自筆で課題を紙ベースで提出する。</li> </ul>		
質問・相談の受付方法	・授業中、授業終了後。非常勤控室でも可。		
履修要件	なし		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その瞬間がキミの未来を変える。</li> <li>・常に学ぶ姿勢を大切にしよう。</li> </ul>		

科目名	介護福祉	開講時期	2年 後期
担当教員	佐々木 隆志	単位数	2
テーマ	高齢者と介護についての理解を深める		
授業の概要と目的	高齢者の介護をめぐる諸問題の理解をし、介護保険制度を中心とした具体的サービスについての現状と課題、介護の理念、支援技術の考え方を学ぶ。最後に、高齢者の視点にたつて地域社会と介護福祉の関係性について理解を深める。この講義では介護福祉の基本的な理念とサービスの利用方法について知識と技術を修得する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者と介護</li> <li>2. 介護の理念と目的</li> <li>3. 介護保険制度のしくみ</li> <li>4. 介護保険サービスの体系</li> <li>5. 介護保険サービスの種類と内容①</li> <li>6. 介護保険サービスの種類と内容②</li> <li>7. 要介護高齢者を支援する組織と役割</li> <li>8. 要介護高齢者の支援の方法と実際</li> <li>9. 介護過程のしくみ</li> <li>10. 介護過程の意義</li> <li>11. 介護各論概念</li> <li>12. 介護各論の対象と方法</li> <li>13. 介護各論の実践理論</li> <li>14. 要介護者と地域社会、介護をめぐる社会情勢と今後の課題</li> <li>15. 今後の高齢者福祉の課題と展望</li> </ol>		
テキスト	新・社会福祉士養成講座 第13巻『高齢者に対する支援と介護保険制度』中央法規出版 プリント配布		
参考文献	授業中に適宜紹介する		
成績評価の基準・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期試験8割、授業内で提出する課題及び小レポート・講義の取組み姿勢2割を基準として評価する。</li> <li>・上記方法は、授業開始時アナウンスし、実施方法は自筆で課題を紙ベースで提出する。</li> </ul>		
質問・相談の受付方法	・授業中、授業終了後。非常勤控室でも可。		
履修要件	なし		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その瞬間がキミの未来を変える。</li> <li>・常に学ぶ姿勢を大切にしよう。</li> </ul>		

科目名	障害者福祉サービス	開講時期	2年前期
担当教員	太田晴康	単位数	2
テーマ	障害者の自立支援生活を支援する		
授業の概要と目的	<p>障害者の生活の実態について、取り巻く社会情勢や福祉・介護分野における要望やその必要性を理解します。また障害者福祉制度は一朝一夕に築き上げられたわけではありません。そのプロセスをたどりながら、相談援助という活動では欠かすことのできない法律(障害者基本法、障害者自立支援法、身体障害者福祉法等)を学びながら、支援のあり方について身につけることが目的です。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 障害者の生活の実態と、それを取り巻く社会情勢、福祉・介護への要望</li> <li>2. 障害者福祉制度はどのように発展してきたのかを概括</li> <li>3. 障害者自立支援法の成立とその意図する内容</li> <li>4. 障害者自立支援法におけるサービス供給主体の役割と実際</li> <li>5. 障害者自立支援法と専門職の果たす役割</li> <li>6. 他職種との連携を通じた自立支援</li> <li>7. 相談支援事業が果たす機能と事例</li> <li>8. 身体障害者福祉法の概要</li> <li>9. 知的障害者福祉法の概要</li> <li>10. 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の概要</li> <li>11. 発達障害者支援法の概要</li> <li>12. 障害者基本法の成立とその意義</li> <li>13. 心神喪失を取り巻く法律と運用</li> <li>14. 高齢者、障害者のバリアフリーとユニバーサルデザイン</li> <li>15. 障害者の就労に関する法律と事例</li> </ol>		
テキスト	『新・社会福祉士養成講座 14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度』(社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規出版) ※最新版を使用します。		
参考文献	『新・社会福祉士養成講座 18 就労支援サービス』(社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規出版)		
成績評価の基準・方法	<p>学期末の筆記試験：50%</p> <p>毎回実施する小テスト：50%</p> <p>※事前に予習を義務づけますので留意して下さい。</p>		
質問・相談の受付方法	レスポンスカード(質問用紙、様式は問わない)に積極的に記述し、提出してください。		
履修要件	特に設けない		
特別学生の履修の可否	<p>科目等履修生【可】</p> <p>聴講生【可】</p>		
その他	障害等の理由により適切な配慮が必要な学生は事前に申し出てください。		



科目名	生活保護	開講時期	2年 後期
担当教員	中澤 秀一	単位数	2
テーマ	社会福祉の最後のセーフティネットの役割を果たしている公的扶助制度について考察する		
授業の概要と目的	<p>生存権を普遍的に下から保障することで社会福祉制度の要であり、社会福祉の最後の安全網(セーフティネット)の役割を果たしている公的扶助制度について考察する。</p> <p>まず、英国を中心に貧困問題に対する施策の歴史を理解し、制度の成立過程を考察する。そこから、公的扶助の歴史的な性格と普遍的意義について学んでいく。その上で、生活保護の実際の事例を交えつつ、生活保護制度の原理・原則と保護の内容や生活保護受給の動向について解説を行い、現代の貧困の実態とそれに対して公的扶助制度が果たしている役割について理解を深め、現行制度の抱えている問題点を探っていく。</p> <p>毎回、授業開始時に復習テストを実施する。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに (公的扶助とは)</li> <li>2. 公的扶助の歴史 (英国)</li> <li>3. 公的扶助の歴史 (貧困調査)</li> <li>4. 公的扶助の歴史 (日本)</li> <li>5. 保護の目的と基本原理</li> <li>6. 保護の原則</li> <li>7. 保護の基準と種類</li> <li>8. 保護の実施体制</li> <li>9. 保護の動向</li> <li>10. 生活保護施設と低所得者対策</li> <li>11. 今日の国民生活と貧困問題</li> <li>12. 生活保護行政の現状</li> <li>13. 朝日訴訟</li> <li>14. 現代の貧困</li> <li>15. 総括</li> </ol> <p>以上の内容について随時、事例やビデオを織り交ぜながら解説していく。</p>		
テキスト	講義内でプリントを配布する		
参考文献	講義内で適宜紹介する		
成績評価の基準・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学期末の筆記試験 (90%)</li> <li>・ レポート (10%)</li> <li>・ 無断欠席をしないこと (3回以上の受講生は減点の対象とする。1回につき7点減点)。</li> </ul>		
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室あるいは講師控室 (研究室棟 1階) で受け付ける		
履修要件	特に設けない		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	毎回、講義の初めにレジュメを配布する。そのレジュメに書き込む形で授業を進めていきたい。また、復習テストを実施するが、その際に前回のレジュメは利用しても構わないので、是非以前のレジュメも持参するようにしてほしい。		

科目名	保健医療サービス	開講時期	3年 前期
担当教員	石光和雅	単位数	2
テーマ	保健医療専門職としての最低限の基礎的知識を学ぶ		
授業の概要と目的	<p>「社会福祉士法及び介護福祉士法」の改正に伴い、社会福祉士と精神保健福祉士の共通科目の一つとして設けられた本科目は、旧共通科目であった「医学一般」が「保健医療サービス」と「人体の構造と機能及び疾病」に分かれたものです。使用するテキストは、社会福祉士国家試験のシラバスに準じた内容となっています。保健医療専門職として必要な最低限の基礎的知識を学ぶことを目的とします。</p>		
授業計画	<p>第1回 利用者患者・医療機関という場の理解をする  第2回 各医療専門職の役割  第3回 医療ソーシャルワーカー業務指針  第4回 保健医療サービスの概要  第5回 医療保険制度の概要  第6回 診療報酬制度  第7回 医療保険制度と介護保険制度の関係  第8回 保健医療対策  第9回 連携の意味  第10回 保健医療サービスにおける連携の実際  第11回 地域の社会資源との連携  第12回 保健医療サービスにおける今後の課題と展望  第13回 地域・在宅医療に向けて  第14回 (事例学習) 医療ソーシャルワーカーの働き  第15回 授業の総括</p>		
テキスト	現代の社会福祉士養成シリーズ『保健医療サービス』久美出版、2010年		
参考文献	授業中に適宜紹介します。		
成績評価の基準・方法	毎回の振り返りシートと小テスト及び学期末の筆記試験で評価します。 (配点 30 : 70)		
質問・相談の受付方法	振り返りシートに積極的に記入して下さい。 オフィスアワー(後日掲示)を積極的に利用して下さい。 kanma@suw.ac.jp へどうぞ		
履修要件	特に設けません。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	積極的な質問を歓迎します。		

科目名	権利擁護と成年後見制度	開講時期	3年 後期
担当教員	五味 保教	単位数	2
テーマ	権利擁護の認識に基づいた社会福祉実践		
授業の概要と目的	社会福祉士としての援助実践は、利用者の権利擁護の視点を忘れてはならない。 具体的な権利擁護のあり方について、講義形式を主体として学習する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉士と権利擁護</li> <li>2. 相談援助活動に求められる法知識①(憲法)</li> <li>3. 相談援助活動に求められる法知識②(行政法)</li> <li>4. 相談援助活動に求められる法知識③(家族法)</li> <li>5. 相談援助活動に求められる法知識④(相続法)</li> <li>6. 成年後見制度の概要①</li> <li>7. 成年後見制度の概要②</li> <li>8. 成年後見の実際①</li> <li>9. 成年後見の実際②</li> <li>10. 成年後見制度利用支援事業の概要</li> <li>11. 日常生活自立支援事業の概要</li> <li>12. 権利擁護支援の局面と法制度の活用</li> <li>13. 権利擁護に関わる組織・団体とその役割</li> <li>14. 権利擁護活動の実際</li> <li>15. 権利擁護の課題と展望</li> </ol>		
テキスト	新・社会福祉士養成講座 19 「権利擁護と成年後見制度」 社会福祉士養成講座編集委員会 編集 中央法規出版株式会社		
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業において適宜紹介する。</li> </ul>		
成績評価の基準・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期末の筆記試験で評価する。(80%)</li> <li>・授業での積極性。(20%)</li> </ul>		
質問・相談の受付方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業終了後、教室で受け付ける。</li> </ul>		
履修要件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に設けない。</li> </ul>		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意欲的な授業態度で臨んでください。</li> <li>・質問等は歓迎します。</li> </ul>		

科目名	更生保護と就労支援	開講時期	3年 後期
担当教員	武藤 裕子(1～7回)、太田 晴康(8～15回)	単位数	2
テーマ	更生保護および就労支援制度の基本を理解する		
授業の概要と目的	今日の福祉の基本的な考え方である、自立支援に対する理解を深める。 更生保護の意義と目的、就労支援の方法を学びより高い専門性を身につける。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 更生保護制度の概要 (P2～36)</li> <li>3. 更生保護制度の概要 (P37～56)</li> <li>4. 更生保護制度の担い手 (P57～71)</li> <li>5. 更生保護制度に関わる機関・団体 (P73～86)</li> <li>6. 更生保護制度に関わる機関・団体 (P87～127)</li> <li>7. 更生保護まとめ</li> <li>8. 働くことの意味と社会福祉士の役割 (P2～4)</li> <li>9. 現代の労働を取り巻く状況 (P6～23)</li> <li>10. 障害者と就労支援 (P26～71)</li> <li>11. 低所得者と就労支援 (P74～96)</li> <li>12. 連携、ネットワーキング (P98～122)</li> <li>13. 就労支援のあり方 (P124～126+配付資料「自立支援協議会と就労支援」)</li> <li>14. 社会福祉士国家試験について</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		
テキスト	新・社会福祉士養成講座 20 更生保護制度 中央法規出版 新・社会福祉士養成講座 18 就労支援サービス 中央法規出版		
参考文献	適宜、紹介する。		
成績評価の基準・方法	出席および授業態度 50% 小テスト・レポート 50%		
質問・相談の受付方法	オフィスアワー及び随時		
履修要件	社会福祉士の実習を前提とし、国家試験の受験を希望する学生を対象とします。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	障害等の理由により適切な配慮が必要な学生は事前に申し出てください。		

科目名	相談援助演習 A	開講時期	1年 後期
担当教員	太田晴康・鈴木武幸・武藤裕子・相原真人 清水将一・石光和雅・吉田輝美・三岳貴彦	単位数	2
テーマ	相談援助における基本姿勢を理解する		
授業の概要 と目的	相談援助の基本となる、自己覚知と他者理解について理解を深める。 また、コミュニケーションの基本方法を学ぶ。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 自己覚知① 私は…</li> <li>3. 自己覚知② ライフヒストリー</li> <li>4. 自己覚知③ ジェノグラムとエコマップ</li> <li>5. 自他の価値観と他者理解① 大切なもの</li> <li>6. 自他の価値観と他者理解② 価値の順位</li> <li>7. 自他の価値観と他者理解③ 二つの物語</li> <li>8. 自他の価値観と他者理解④ 専門職の価値観</li> <li>9. 倫理綱領</li> <li>10. 援助的コミュニケーション① コミュニケーションと体の感覚</li> <li>11. 援助的コミュニケーション② クライアントに対する姿勢と距離</li> <li>12. 援助的コミュニケーション③ クライアントに対する視線・表情・反応</li> <li>13. 援助的コミュニケーション④ 話す速さ・アクセント</li> <li>14. まとめ①</li> <li>15. まとめ②</li> </ol>		
テキスト	「ワークブック社会福祉援助技術演習1」ミネルヴァ書房		
参考文献	F・P・バイスティック「ケースワークの原則」誠信書房 「社会福祉相談援助演習」中央法規出版		
成績評価の 基準・方法	出席および授業態度 50% 小テスト・レポート 50%		
質問・相談 の受付方法	授業終了時、および研究室にて受け付けます。		
履修要件	社会福祉士の実習を前提とし、国家試験の受験を希望する学生を対象とします。		
特別学生の 履修の可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】		
その他			

科目名	相談援助演習 B	開講時期	2年 前期
担当教員	太田晴康・鈴木武幸・武藤裕子・相原真人 清水将一・石光和雅・吉田輝美・三岳貴彦	単位数	2
テーマ	相談援助の流れを理解する		
授業の概要と目的	ソーシャルワークにおける基本的な流れを理解し、それぞれの過程におけるワーカーの役割と技術を身に付ける。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個別援助の基本姿勢</li> <li>2. 個別援助の過程</li> <li>3. インテーク</li> <li>4. アセスメント</li> <li>5. プランニング</li> <li>6. インターベンション</li> <li>7. モニタリング</li> <li>8. 効果測定</li> <li>9. 終結とアフターケア</li> <li>10. 基本的コミュニケーション</li> <li>11. 基本的応答技法</li> <li>12. 基本的応答技法の活用</li> <li>13. 傾聴と共感</li> <li>14. 支持・焦点をあててついていく</li> <li>15. まとめ</li> <li>16. 施設見学</li> </ol>		
テキスト	「ワークブック社会福祉援助技術演習 2」 ミネルヴァ書房		
参考文献	F・P・バイスティック「ケースワークの原則」誠信書房 「社会福祉相談援助演習」 中央法規出版		
成績評価の基準・方法	出席および授業態度 50% 小テスト・レポート 50%		
質問・相談の受付方法	授業終了時および研究室にて受け付けます。		
履修要件	社会福祉士の実習を前提とし、国家試験の受験を希望する学生を対象とします。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】		
その他	施設見学に参加しないと相談援助実習に行くことはできません。		

科目名	相談援助演習 C	開講時期	2年 後期
担当教員	太田晴康・鈴木武幸・武藤裕子・相原真人 清水将一・石光和雅・吉田輝美・三岳貴彦	単位数	2
テーマ	集団援助の技術と方法について学ぶ		
授業の概要と目的	集団援助の意義とその過程を学び、共通技術の基本を身につける。展開過程における技術を理解し、実際のレクリエーションを体験する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 集団援助の意義と目的</li> <li>2. 集団援助の共通技術（基本構想の設定）</li> <li>3. 集団援助の共通技術（話し方と傾聴の技法）</li> <li>4. 集団援助の共通技術（メンバー間のつながりと相互作用）</li> <li>5. 集団援助の共通技術（集団規範の形成）</li> <li>6. 集団援助の共通技術（プログラムの分析・立案）</li> <li>7. 集団援助の過程（実践のための準備）</li> <li>8. 集団援助の過程（波長あわせ）</li> <li>9. 集団援助の過程（初回セッション）</li> <li>10. 集団援助の過程（相互援助システムの形成①）</li> <li>11. 集団援助の過程（相互援助システムの形成②）</li> <li>12. 集団援助の過程（相互援助システムの活用①）</li> <li>13. 集団援助の過程（相互援助システムの活用②）</li> <li>14. レクリエーション（障害児・高齢者）</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		
テキスト	「ワークブック社会福祉援助技術演習 4」ミネルヴァ書房		
参考文献	「社会福祉相談援助演習」中央法規出版		
成績評価の基準・方法	出席および授業態度 50% 小テスト・レポート 50%		
質問・相談の受付方法	授業終了時、および研究室にて受け付けます。		
履修要件	社会福祉士の実習を前提とし、国家試験の受験を希望する学生を対象とします。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】		
その他			

科目名	相談援助演習 D	開講時期	3年 前期
担当教員	鈴木武幸・武藤裕子・相原真人・清水将一 吉田輝美・三岳貴彦	単位数	2
テーマ	地域を基盤とした事例を通して、地域への理解を深めネットワークや連携、協働について学ぶ。また、さまざまな実践モデルやアプローチの方法を身につける。		
授業の概要と目的	<p>地域を理解し、地域におけるサービスやネットワークの方法を理解する。利用者の権利擁護、社会資源、住民参加とボランティアの組織化など、具体的な方法を学ぶ。</p> <p>また、さまざまな実践モデルやアプローチについて理解する。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域とは</li> <li>2. 地域福祉計画の策定に関する相談援助</li> <li>3. 地域におけるサービス提供に関する相談援助演習</li> <li>4. 地域におけるネットワークに関する相談援助演習</li> <li>5. 地域における権利擁護活動に関する相談援助演習</li> <li>6. 社会資源の把握、活用、調整、開発に関する相談援助演習</li> <li>7. 住民参加と組織化活動に関する相談援助演習</li> <li>8. 治療モデル、環境モデル、生活モデルとストレングスモデル</li> <li>9. 心理社会的アプローチと機能的アプローチ</li> <li>10. 問題解決アプローチと危機介入アプローチ</li> <li>11. 行動変容アプローチとエンパワメントアプローチ</li> <li>12. 家族システム論</li> <li>13. ケースマネジメント</li> <li>14. ケアプラン</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		
テキスト	「ワークブック社会福祉援助技術演習5」 ミネルヴァ書房		
参考文献	「社会福祉相談援助演習」 中央法規出版		
成績評価の基準・方法	出席および授業態度 50% 小テスト・レポート 50%		
質問・相談の受付方法	授業終了時、および研究室にて受け付けます。		
履修要件	社会福祉士の実習を前提とし、国家試験の受験を希望する学生を対象とします。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】		
その他			

科目名	相談援助演習Ⅴ	開講時期	3年 後期
担当教員	鈴木武幸・武藤裕子・相原真人・清水将一 吉田輝美・三岳貴彦	単位数	2
テーマ	ソーシャルワークの全体像を捉え、実践的な支援技術を身に付ける。		
授業の概要 と目的	<p>本科目の目的の一つは相談援助実習との相乗的な学習効果を図ることにある。したがって、実習における個別的な体験の一般化・普遍化等、実習で学んだ内容を確実に内在化させると共に、2回目の実習を視野に入れ、種々の事例を通じた学習を行う。具体的には、現代社会において新たに問題となっている社会的排除や社会的孤立、さらには複合的な福祉課題に対する認識を深め、実践的なソーシャルワーカーとしての支援技術を学ぶ。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 相談援助実習の振り返り</li> <li>2. 社会的排除・孤立とは</li> <li>3. ミクロからマクロ・レベル実践に焦点を当てた相談援助演習</li> <li>4. 就労支援に関する相談援助演習（障がい者、母子家庭）</li> <li>5. 病院からの退院・学校でのいじめに関する相談援助演習</li> <li>6. 虐待（児童・高齢者）への相談援助演習</li> <li>7. ドメスティック・バイオレンスに関する相談援助演習</li> <li>8. 低所得者・ホームレスへの相談援助演習</li> <li>9. 高齢者（認知症・要介護）とその家族への相談援助演習</li> <li>10. 障がい者（身体障害・知的障害）とその家族への相談援助演習</li> <li>11. 障がい者（発達障害・精神障害）とその家族への相談援助演習</li> <li>12. 児童（児童養護施設入所）への相談援助演習</li> <li>13. アルコール依存症者とその家族への相談援助演習</li> <li>14. 非行少年・在住外国人とその家族への相談援助演習</li> <li>15. 総括</li> </ol>		
テキスト	「社会福祉士相談援助演習」 中央法規出版		
参考文献	適宜、指示する。		
成績評価の 基準・方法	<p>出席および授業態度 50%</p> <p>小テスト・レポート 50%</p>		
質問・相談 の受付方法	オフィスアワー		
履修要件	相談援助演習 A,B,C,D を履修済みのこと		
特別学生の 履修の可否	<p>科目等履修生 【不可】</p> <p>聴講生 【不可】</p>		
その他			

科目名	相談援助実習指導	開講時期	3年通・4年前																																																																											
担当教員	太田晴康、鈴木武幸、武藤裕子、相原真人、清水将一 吉田輝美、三岳貴彦	単位数	6																																																																											
テーマ	実習に必要な倫理・知識・技術等を身に付け、自己の資質および専門性を確認する。																																																																													
授業の概要と目的	実習は、実践力のある対人援助専門職として仕事をする力量を総合的に身に付ける必須の過程である。この授業は、そのような実習を遂行する力量を養うため、福祉現場で必要とされる態度やマナーをはじめ倫理・知識・技術等を身に付けるとともに、実習内容の振り返りを通じて専門職としての自己のあり方を問うことが目的となる。																																																																													
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1 オリエンテーション (共)</td> <td>16</td> <td>前期実習の振り返り①</td> <td>31</td> <td>後期実習の振り返り①</td> </tr> <tr> <td>2 実習の手引き (共)</td> <td>17</td> <td>" ②</td> <td>32</td> <td>" ②</td> </tr> <tr> <td>3 見学実習との関連</td> <td>18</td> <td>" ③</td> <td>33</td> <td>" ③</td> </tr> <tr> <td>4 実習施設の学習①</td> <td>19</td> <td>実習施設の学習①</td> <td>34</td> <td>" ④</td> </tr> <tr> <td>5 " ②</td> <td>20</td> <td>" ②</td> <td>35</td> <td>実習報告書の作成①</td> </tr> <tr> <td>6 " ③</td> <td>21</td> <td>" ③</td> <td>36</td> <td>" ②</td> </tr> <tr> <td>7 個人票の作成</td> <td>22</td> <td>個人票の作成</td> <td>37</td> <td>" ③</td> </tr> <tr> <td>8 実習計画書の作成</td> <td>23</td> <td>実習計画書の作成</td> <td>38</td> <td>" ④</td> </tr> <tr> <td>9 職場実習の準備</td> <td>24</td> <td>職場実習の準備</td> <td>39</td> <td>プレゼンテーション①</td> </tr> <tr> <td>10 職種実習の準備</td> <td>25</td> <td>職種実習の準備</td> <td>40</td> <td>" ②</td> </tr> <tr> <td>11 SW実習の準備①</td> <td>26</td> <td>SW実習の準備①</td> <td>41</td> <td>" ③</td> </tr> <tr> <td>12 " ②</td> <td>27</td> <td>" ②</td> <td>42</td> <td>" ④</td> </tr> <tr> <td>13 実習日誌の書き方①</td> <td>28</td> <td>" ③</td> <td>43</td> <td>実習報告会①</td> </tr> <tr> <td>14 " ②</td> <td>29</td> <td>実習日誌の書き方①</td> <td>44</td> <td>" ②</td> </tr> <tr> <td>15 " ②</td> <td>30</td> <td>" ②</td> <td>45</td> <td>総括</td> </tr> </table>			1 オリエンテーション (共)	16	前期実習の振り返り①	31	後期実習の振り返り①	2 実習の手引き (共)	17	" ②	32	" ②	3 見学実習との関連	18	" ③	33	" ③	4 実習施設の学習①	19	実習施設の学習①	34	" ④	5 " ②	20	" ②	35	実習報告書の作成①	6 " ③	21	" ③	36	" ②	7 個人票の作成	22	個人票の作成	37	" ③	8 実習計画書の作成	23	実習計画書の作成	38	" ④	9 職場実習の準備	24	職場実習の準備	39	プレゼンテーション①	10 職種実習の準備	25	職種実習の準備	40	" ②	11 SW実習の準備①	26	SW実習の準備①	41	" ③	12 " ②	27	" ②	42	" ④	13 実習日誌の書き方①	28	" ③	43	実習報告会①	14 " ②	29	実習日誌の書き方①	44	" ②	15 " ②	30	" ②	45	総括
1 オリエンテーション (共)	16	前期実習の振り返り①	31	後期実習の振り返り①																																																																										
2 実習の手引き (共)	17	" ②	32	" ②																																																																										
3 見学実習との関連	18	" ③	33	" ③																																																																										
4 実習施設の学習①	19	実習施設の学習①	34	" ④																																																																										
5 " ②	20	" ②	35	実習報告書の作成①																																																																										
6 " ③	21	" ③	36	" ②																																																																										
7 個人票の作成	22	個人票の作成	37	" ③																																																																										
8 実習計画書の作成	23	実習計画書の作成	38	" ④																																																																										
9 職場実習の準備	24	職場実習の準備	39	プレゼンテーション①																																																																										
10 職種実習の準備	25	職種実習の準備	40	" ②																																																																										
11 SW実習の準備①	26	SW実習の準備①	41	" ③																																																																										
12 " ②	27	" ②	42	" ④																																																																										
13 実習日誌の書き方①	28	" ③	43	実習報告会①																																																																										
14 " ②	29	実習日誌の書き方①	44	" ②																																																																										
15 " ②	30	" ②	45	総括																																																																										
テキスト	本学社会福祉実習委員会編著「相談援助実習の手引き」および、加藤幸雄、柿本誠他編著「相談援助実習—ソーシャルワークを学ぶ人のためのテキスト—」中央法規																																																																													
参考文献	その都度紹介する。																																																																													
成績評価の基準・方法	授業態度等の積極性 (50%) + 提出物 (実習報告書を含む) の内容 (50%) を総合して評価する。なお、 <u>10分以上の遅刻が2回あれば1回の欠席としてカウントする。</u>																																																																													
質問・相談の受付方法	基本的には授業中に回答する。また、必要に応じ、アポイントメントを取った上で各クラス担当教員の研究室等でも受け付ける。																																																																													
履修要件	3年は、 <u>実習登録申込書</u> を提出し、原則として「現代社会と福祉 A・B」「相談援助の基盤と専門職 A・B」「相談援助演習 A・B・C」「相談援助の理論と方法 A・B」「地域福祉の理論と方法 A・B」「高齢者福祉サービス」「介護福祉」「障害者福祉サービス」「児童・家庭福祉サービス」の単位を取得した者。4年は前年度の履修登録者のみ。																																																																													
特別学生の履修の可否	科目等履修生【不可】 聴講生【不可】																																																																													
その他	前・後期とも欠席回数が各々6回以上の場合、配属済みでも実習に参加できないことがある。また、 <u>3回連続の授業欠席は呼び出しの上面談を実施</u> することがある。さらに、日頃からできる限りボランティアに参加するよう心掛けるとともに、 <u>5月の連休中にはフィールドワークの宿題が課される予定</u> なので、そのつもりで参加すること。																																																																													

科目名	相談援助実習	開講時期	3年通年
担当教員	太田晴康、鈴木武幸、武藤裕子、相原真人、清水将一、横溝一浩、長坂和則、石光和雅、吉田輝美、三岳貴彦	単位数	6
テーマ	実際に福祉職場を体験し、社会福祉士に必要な倫理・知識・技術を身に付けるとともに、実践力のある対人援助専門職を目指して自己を振り返り、資質や専門性を磨く。		
授業の概要と目的	<p>実習は社会福祉士の国家試験を受験するための必須科目であるばかりでなく、実際の現場を体験することにより、概ね以下の内容を達成することが求められる。</p> <p>1) 利用者や職員と良好な人間関係を形成する。 2) 利用者が置かれている状況や想いを理解する。 3) 利用者のニーズを把握し、支援計画を策定し、出来る範囲で実行する。 4) 施設や機関の機能と役割を理解する。 5) 職員とのチームワークのあり方を考え、出来る範囲で実行する。 6) 大学で学んだ知識を現実場面に応用できる実践能力を養う。 7) 現実場面での具体的活動を抽象化・概念化し、理論化していく能力を養う。</p>		
授業計画	<p>1 基本的な実習期間</p> <p>1) 前期 … 2011年8月22日～9月12日</p> <p>2) 後期 … 2012年2月27日～3月13日</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin-left: 20px;">       但し、この期間は実習先の事情等により前後することがある。     </div> <p>2 主な実習施設・機関の種類（障害者福祉関連施設の名称は旧法によるものも併記）</p> <p>1) 老人福祉関連施設 … 特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、老人デイサービスセンター、介護老人保健施設、等</p> <p>2) 障害者福祉関連施設 … 障害者支援施設、生活介護・自立訓練・就労移行支援・就労継続支援施設、身体障害者更生・療護・授産施設、知的障害者更生・授産施設、等</p> <p>3) 児童福祉関連施設 … 児童養護施設、知的障害児施設、知的障害児通園施設、情緒障害児短期治療施設、母子生活支援施設、等</p> <p>4) 社会福祉協議会 … 市町社会福祉協議会、等</p> <p>5) 相談機関等 … 地域包括支援センター、等</p> <p>6) その他 … 生活保護法による救護施設、病院、等</p>		
テキスト	<p>1 相談援助実習の手引き</p> <p>2 実習日誌</p>		
参考文献	必要に応じて指示する。		
成績評価の基準・方法	実習先施設・機関の評価をベースにしつつ、実習担当（実習指導授業担当、および巡回指導担当）教員の合議によって最終的な評価を決定する。		
質問・相談の受付方法	実習中、原則として1週間に1回は担当教員が巡回指導をするので、基本的にはその機会に質問や相談を受けるほか、必要に応じ実習指導センターでも受け付ける。		
履修要件	「相談援助実習指導」と同様。なお、必要な授業の単位が所定の時期までに取得できない場合、 <u>実習に参加できない</u> こともあり得るので十分注意すること。		
特別学生の履修の可否	<p>科目等履修生【不可】</p> <p>聴講生【不可】</p>		
その他	<p>実習時間（180時間以上）は<u>全て実施しなければ履修したことにならない</u>。実習先での<u>遅刻や欠席は認められない</u>。また真に止むを得ない事由であっても、実習時間が不足する場合は、後日その<u>埋め合わせが必要になることもある</u>ので十分注意すること。</p>		

科目名	少子化社会と社会福祉	開講時期	1年 後期
担当教員	山田 美津子	単位数	2
テーマ	少子高齢社会の現状を理解し社会福祉のあり方について考察する。		
授業の概要と目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷について理解する。</li> <li>2. 社会福祉の制度や実施体系について理解する。</li> <li>3. 少子高齢社会の現状、影響について理解する。</li> <li>4. 少子高齢社会における社会福祉の目的、役割について理解する。</li> <li>5. 世界の社会福祉の動向について理解する。</li> </ol>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会と社会福祉の意義</li> <li>2. 少子化の進展</li> <li>3. 少子化対策</li> <li>4. 少子化対策</li> <li>5. スウェーデン、デンマークにおける少子化対策</li> <li>6. フランスにおける少子化対策</li> <li>7. 高齢化・長寿化</li> <li>8. 高齢者福祉の現状</li> <li>9. 介護保険制度</li> <li>10. 介護保険制度</li> <li>11. スウェーデン、デンマークにおける高齢者福祉</li> <li>12. 少子高齢社会の影響</li> <li>13. 少子高齢社会における社会福祉の役割</li> <li>14. 少子高齢社会における社会福祉の目的</li> <li>15. 北欧諸国の社会福祉の動向</li> </ol>		
テキスト	山田美津子、稲葉光彦編『社会福祉を学ぶ』みらい		
参考文献	講義中適宜紹介する		
成績評価の基準・方法	授業への参加熱意：レポート：期末試験＝1：2：7		
質問・相談の受付方法	授業終了後、またはオフィスアワー（後日掲示）を利用してほしい		
履修要件	特になし		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他			

科目名	ボランティア論	開講時期	1年 後期
担当教員	横溝一浩	単位数	2
テーマ	1. ボランティア活動についての基本理解、活動の展開、組織化 2. NPOの組織化とマネジメント      3. 新たな非営利セクター（社会的企業）		
授業の概要と目的	ボランティアに関する基本的な知識を深めながら、さまざまなアクター（主体）によるボランティア活動を構造的にとらえ、自己、他者、社会への理解を深める。また、ボランティア活動（市民活動）を組織する立場に立ってNPO活動の実践を理解し、新たなサードセクターとして注目されている社会的企業 <small>ソーシャルエンタープライズ</small> の可能性についても考察する。		
授業計画	第1回 自己理解・人間理解～利己的か利他的か～ 第2回 地域社会の理解～多様な主体を探る～ 第3回 地域社会の課題を発見する～歴史的考察～ 第4回 多様なボランティア活動を知る 第5回 ボランティア活動の方法と課題～組織化の理論と課題～ 第6回 ボランティア活動と教育との関わり（英「シチズンシップ教育」） 第7回 国際ボランティアとNGO 第8回 フェアトレード（社会的交換の重要性） 第9回 NPOのマネジメント①～ミッションとリーダーシップ～ 第10回 NPOのマネジメント②～マーケティング、イノベーション～ 第11回 NPOのマネジメント③～非営利組織の成果～ 第12回 新たなサードセクター～企業の仕組みを使った社会貢献～ 第13回 社会的企業の事例～バイエルンミュンヘンと浦和レッズ～ 第14回 ボランティア・市民活動、NPOと行政の協働をめざして 第15回 授業総括		
テキスト	なし		
参考文献	大阪ボランティア協会編「ボランティア＝参加する福祉」（ミネルヴァ書房）、マイルズリトヴィーノフ、ジョン・メイドリー 著「フェアトレードで買う50の理由」（青土社）、P.F. ドラッカー 著「非営利組織の経営—原理と実践」（ダイヤモンド社）、カルロ・ボルザガ編集「社会的企業（ソーシャルエンタープライズ）」（単行本）、西野 努 著「なぜ、浦和レッズだけが世界に認められるのか」（東邦出版）、東京ボランティア・市民活動センター編「イギリスのコンパクトから学ぶ協働のあり方」		
成績評価の基準・方法	リアクションペーパー：30%、授業態度：20%、 試験：50% ※授業態度が極めて悪い場合（私語など）、別の基準を適用する		
質問・相談の受付方法	e-mailによる受付；随時受付（yokomizo@suw.ac.jp） 直接、質問・相談する場合：研究室（201）にて授業・会議の空き時間に受付		
履修要件	特になし		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	ボランティアや市民活動を多角的に皆さんと考えながら授業を進める予定です。		

科目名	子ども家庭福祉	開講時期	2年 前期
担当教員	山田 美津子	単位数	2
テーマ	子ども家庭福祉の意義、保育との関連性、制度、現状と課題について理解する		
授業の概要と目的	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史の変遷について理解する。</li> <li>2. 子ども家庭福祉と保育との関連性及び子どもの人権について理解する。</li> <li>3. 子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。</li> <li>4. 子ども家庭福祉の現状と課題について理解する。</li> <li>5. 子ども家庭福祉の動向と展望について理解する。</li> </ol>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 子ども家庭福祉と保育</li> <li>2. 子ども家庭福祉の意義と歴史</li> <li>3. 子ども家庭福祉の制度</li> <li>4. 子ども家庭福祉の実施体制</li> <li>5. 少子化対策と子育て支援サービス</li> <li>6. 母子保健と子どもの健全育成</li> <li>7. 多様な保育ニーズへの対応</li> <li>8. 児童虐待防止</li> <li>9. 児童虐待防止・ドメスティックバイオレンス</li> <li>10. 社会的養護</li> <li>11. 障がいのある児童への対応</li> <li>12. 少年非行への対応</li> <li>13. ひとり親家庭</li> <li>14. 諸外国の動向</li> <li>15. 子ども家庭福祉の動向と展望</li> </ol>		
テキスト	神戸賢次、喜多一憲編『新撰児童福祉』みらい		
参考文献	講義中適宜紹介する		
成績評価の基準・方法	授業への参加熱意：レポート：学期末の筆記試験＝1：2：7		
質問・相談の受付方法	授業終了後、またはオフィスアワー（後日掲示）を利用してほしい		
履修要件	特になし		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他			

科目名	日本近代福祉史	開講時期	2年後期																
担当教員	小田部雄次	単位数	2																
テーマ	日本の近代福祉を築いた人びとについて学ぶ																		
授業の概要と目的	毎時間、日本の近代福祉を築いた人びとについて学ぶ。また、福祉に関する最新の新聞記事などを読み、福祉の現状などを知る。																		
授業計画	<p>毎週、日本の近代福祉を築いた人びとについての簡単な問題を解き、講義の最後の時間にそれをまとめる。また毎週、復習の時間をもうけるので、重要事項はくりかえし学ぶようにする。</p> <p>さらに宿題プリントを毎回用意するので、次の講義までに記入して提出する。宿題プリントは、その日に配られた新聞記事をまとめて、現代の福祉問題について考える作業である。15回目に半期の総括をし、半年間に学んだ人物や重要事項のまとめをする。予定される人物はおおよそ以下の通りであるが、講義の進行上、適宜変わる場合もある。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 岩永マキ・石井十次</td> <td>2 矢島楫子・久布白落実</td> </tr> <tr> <td>3 原胤昭・留岡幸助</td> <td>4 石井亮一・石井筆子</td> </tr> <tr> <td>5 野口幽香・山室軍平</td> <td>6 奥村多喜衛・岩田民次郎</td> </tr> <tr> <td>7 小橋実之助・井上友一</td> <td>8 渋沢栄一・大原孫三郎</td> </tr> <tr> <td>9 横山源之助・田中正造</td> <td>10 井深八重・マザーテレサ</td> </tr> <tr> <td>11 田内千鶴子・沢田美喜</td> <td>12 浅賀ふさ・糸賀一雄</td> </tr> <tr> <td>13 片山潜・佐伯祐正</td> <td>14 岩橋武夫・ヘレンケラー</td> </tr> <tr> <td>15 まとめ・補足</td> <td></td> </tr> </table>			1 岩永マキ・石井十次	2 矢島楫子・久布白落実	3 原胤昭・留岡幸助	4 石井亮一・石井筆子	5 野口幽香・山室軍平	6 奥村多喜衛・岩田民次郎	7 小橋実之助・井上友一	8 渋沢栄一・大原孫三郎	9 横山源之助・田中正造	10 井深八重・マザーテレサ	11 田内千鶴子・沢田美喜	12 浅賀ふさ・糸賀一雄	13 片山潜・佐伯祐正	14 岩橋武夫・ヘレンケラー	15 まとめ・補足	
1 岩永マキ・石井十次	2 矢島楫子・久布白落実																		
3 原胤昭・留岡幸助	4 石井亮一・石井筆子																		
5 野口幽香・山室軍平	6 奥村多喜衛・岩田民次郎																		
7 小橋実之助・井上友一	8 渋沢栄一・大原孫三郎																		
9 横山源之助・田中正造	10 井深八重・マザーテレサ																		
11 田内千鶴子・沢田美喜	12 浅賀ふさ・糸賀一雄																		
13 片山潜・佐伯祐正	14 岩橋武夫・ヘレンケラー																		
15 まとめ・補足																			
テキスト	毎回プリントを用意するので、特に必要ない。																		
参考文献	講義内で適宜紹介する。																		
成績評価の基準・方法	出席してまとめプリントをきちんとすべて書けば3点、宿題プリントもきちんと書いて提出すれば1点を与える。まとめプリントは15回分で45点、宿題プリントは15回分で15点。あとの40点はプリントの内容でとくにすぐれていると思った加算点と、および15回目に行うまとめプリントの成績による。																		
質問・相談の受付方法	講義と会議以外はおおむね研究室にいますので、質問や相談内容を明確にして、いつでもおたずねください。																		
履修要件	特になし。																		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】																		
その他	受講には4つのルールがあります。1私語をしない。2携帯はオフ。3遅刻は恥ずかしそうに。4居眠りは外で。これを守れない方は適宜減点しますので、成績が不可となる場合もあります。																		

科目名	児童思春期精神保健	開講時期	2年 前期
担当教員	水越 三佳	単位数	2
テーマ	子どもの心の育ちとメンタルヘルスについて理解を深めよう		
授業の概要と目的	<p>近年、保育園・幼稚園・学校現場では、多動・粗暴行動・注意散漫・緘黙・いじめ・不登校等子どもの不健康な心の育ちが問題になっている。本講座では「子どもの心の育ち」に視点をおき、乳幼児期から学童期における心身の発達について理解を深め、発生しやすい子どもの諸問題とその要因・対応について学ぶ。</p> <p>特に、幼稚園や保育所等の保育・教育現場における気になる子や障がいを持つ子どもの早期発見・早期治療への保育者の対応や保護者等との連携について事例等を通して理解を深め、保育・教育現場での実践力を身につける。</p> <p>また地域社会の子育て支援、精神保健活動などの社会資源、その実践についても知識を深め、子どもを多角的に支えていく重要性、そのシステムを学んでいく。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育における精神保健</li> <li>2. 精神保健の概要</li> <li>3. こころの発達、こころの健康とは</li> <li>4. 発達と精神保健：胎児期、乳児期</li> <li>5. 発達と精神保健：幼児期、学童期、思春期</li> <li>6. 小児の生活環境と精神保健</li> <li>7. 小児のこころの問題：発達障害</li> <li>8. 小児のこころの問題：ことばの障害、多動性障害、</li> <li>9. 小児のこころの問題：習癖障害、うつ病、強迫性障害、睡眠障害、登園拒否、</li> <li>10. 小児のこころの問題：児童虐待</li> <li>11. 小児期の精神保健活動：保育所における精神保健活動</li> <li>12. 小児期の精神保健活動：子育て支援活動、地域精神保健活動、乳幼児精神医学（疾病分類、治療、母子関係に関連する要因について）</li> <li>13. 障害児保育：障害児保育の対象となる子どもの実態、保育上の配慮及び評価、親への援助と家庭生活の支援内容と意義</li> <li>14. 15. 事例検討（1）（2）</li> </ol>		
テキスト	改訂・保育士養成講座編集委員会編集 精神保健 全国社会福祉協議会出版		
参考文献	講義はテキストを中心にして進めるが、随時プリントやDVDを使いながら補足。		
成績評価の基準・方法	出席は重視する。定期筆記試験 60%、小テスト 15%、レポート 15%、授業の中で実施する実習 10%。		
質問・相談の受付方法	講義終了後、教室にて質問を受け付ける。		
履修要件	特になし。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	<p>私語厳禁。授業の妨げになる学生は、履修しないでください。</p> <p>授業中、私語がみられた場合、即時退室してもらいます。受講態度によっては履修取り消しを行います。</p> <p>子どもに興味・関心のある学生のみ受講して下さい。</p>		

科目名	小児保健A	開講時期	1年 後期
担当教員	船城 秀樹	単位数	2
テーマ	保育をするうえで基本となる小児保健について学ぶ		
授業の概要と目的	小児のこころと身体の健康を維持増進するために必要な基本的知識を習得する。小児各期の心身の健やかな発育・発達と小児に多い疾患およびその予防についての知識を習得し、小児が健康に育つための健康保持について理解する。		
授業計画	第1回 I. 小児保健の意義と目的 第2回 II. 小児の健康と小児保健 (その1) 小児の健康と健康に影響を与える因子 第3回 (その2) 小児の健康指標とわが国の水準 第4回 III. 小児の身体発育と保育 第5回 IV. 小児の生理機能・精神運動機能発達と保育 (その1) どのように発育・発達していくのだろうか 第6回 (その2) 精神運動機能の発達 第7回 (その3) 生理機能の発達 第8回 V. 小児の健康増進とその実践 第9回 VI. 小児の栄養と食生活 第10回 VII. 小児の疾病とその予防対策 (その1) 小児の疾病の特徴 第11回 (その2) 感染症とその予防対策 第12回 (その3) 小児期に特有な疾患 第13回 (その4) 疾病異常と支援体制 第14回 (その5) よく見られる症状とその対処法 第15回 授業の総括		
テキスト	保育士養成講座編纂委員会／編 改訂4版・保育士養成講座 第5巻『小児保健』 全国社会福祉協議会		
参考文献	幼稚園教育要領・保育所保育指針 (原本) その他、講義中に適宜紹介します。		
成績評価の基準・方法	試験での評価 (50%) 毎回の受講態度等 (50%)		
質問・相談の受付方法	講義終了後の教室で受け付けます。		
履修要件	特になし		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	保育士試験の「小児保健」の合格を目指した授業構成になっていますが、子どものことに関心があったり、親になったときに役立ててみようと考えていたりする方の受講も歓迎いたします。子どものことが好きではないのだけれど・・・と思っている方も可。児童への理解を深めていただきたい。		

科目名	小児保健B	開講時期	2年 前期
担当教員	船城 秀樹	単位数	2
テーマ	保育をするうえで基本となる小児保健について学ぶ		
授業の概要と目的	小児保健Aで習得した小児のこころと身体の健康を維持増進するための基本的知識をもとに、小児が安全に健やかに育つための保健活動について学ぶ。特に、小児の死因のトップである事故にへの理解を深め、児童福祉施設における保健対策や母子保健をも学び、保育士として必要な知識と基礎的な技術を習得する。		
授業計画	第1回 I. 子どもの事故と安全対策 (その1) 事故の小児保健的特徴と現状 第2回 (その2) 子どもに多い事故 第3回 (その3) 子どもの事故防止 第4回 (その4) 乳幼児の応急手当 第5回 (その5) 保育園における事故 第6回 II. 児童福祉施設における保健対策 (その1) 児童福祉施設とは 第7回 (その2) 施設における保健活動 第8回 III. 母子保健対策と保育 (その1) 母子保健施策の仕組み 第9回 (その2) 母子保健サービスの実際 第10回 IV. 保育士として必要な基礎的技術 (その1) 講義 第11回 (その2) ベビー人形を使った実習 第12回 V. 小児保健AおよびBの総復習と保育士試験対策 (模擬試験①) 第13回 (模擬試験②) 第14回 (模擬試験③) 第15回 授業の総括		
テキスト	保育士養成講座編集委員会／編 改訂4版・保育士養成講座 第5巻『小児保健』 全国社会福祉協議会		
参考文献	幼稚園教育要領・保育所保育指針 (原本) その他、講義中に適宜紹介します。		
成績評価の基準・方法	試験での評価 (50%) 授業での態度等 (50%)		
質問・相談の受付方法	講義終了後の教室で受け付けます。		
履修要件	「小児保健A」を履修済みであることが望ましい。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	小児保健Bは小児保健Aの知識をもとにした授業構成であり、8月の保育士試験の受験対策も兼ねているので、小児保健Aを受講していることが望ましいが、興味のある方は受講可能。		

科目名	子どもと食生活 A	開講時期	1年 後期
担当教員	田崎 裕美	単位数	2
テーマ	子どもの健全な発達と食生活との関係について、理解を深めることで、保育士として必要な基礎的知識や技術を習得すると共に、食に関する自己管理能力を養成する。		
授業の概要と目的	保育士を目指す学生や将来、親として子育てを担いたいと考える学生を対象に、食生活と子どもの健全な発達について、小児栄養の基礎的理論・知識を理解する。また、自分自身の食生活について、再考することで、自己管理能力を養成すると共に、保育士として必要な基礎的知識・技術を習得する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス：現代の食生活と子ども</li> <li>2. 小児の健康な生活と食生活の意義</li> <li>3. 小児の発育・発達と栄養・食生活 ①</li> <li>4. 小児期の栄養教育 ②</li> <li>5. 栄養と食生活の基礎知識 ① 3大栄養素とエネルギー</li> <li>6. 栄養と食生活の基礎知識 ② ビタミンと無機質</li> <li>7. 栄養と食生活の基礎知識 ③ 消化吸収、代謝と5大栄養素</li> <li>8. 栄養と食生活の基礎知識 ④ 食事摂取基準と食事バランスガイド</li> <li>9. 乳児期の栄養と食生活</li> <li>10. 実習：乳児期の栄養と調理（人工乳の調整と離乳食）</li> <li>11. 幼児期の栄養と食生活①</li> <li>12. 実習：幼児期の食生活実習</li> <li>13. 幼児期の栄養と食生活②</li> <li>14. 小児期の栄養教育</li> <li>15. 小児の食育活動</li> </ol>		
テキスト	改訂・保育士養成講座編纂委員会/編 『小児栄養』 全国社会福祉協議会		
参考文献	田崎裕美・中川英子編 『生活支援のための調理実習』 建帛社 他		
成績評価の基準・方法	授業態度（20点）・小テスト（60点）・学外学習のレポート（20点）から総合的に評価します。		
質問・相談の受付方法	メール（tazaki_11@suw.ac.jp）や口頭、リアクションペーパーでの質問・相談に随時対応します。授業後やオフィスアワーは介護福祉棟 305 研究室で対応します。		
履修要件	なし		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	学外学習として、土日に幼児の食育活動ボランティアに関する演習があります。		

科目名	子どもと食生活 B	開講時期	2年 前期
担当教員	田崎 裕美	単位数	2
テーマ	小児期の栄養と食生活について、保育士として必要な知識や基礎的技術を習得することで、保育現場での実践力を養成する。		
授業の概要と目的	子どもの心身の健康と食生活とは密接な関係がある。孤食、飽食と言われる現在において、乳幼児期の食生活に関する問題は多く、心身の健全な発達に影響を与えている。そこで、小児栄養の基礎的理論・知識を母親の妊娠・授乳期から、学童期まで各ライフステージに沿って理解し、保育現場での実践に繋げることで、保育士として必要な知識・技術を習得する。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育における小児栄養</li> <li>2. 小児の発育・発達と栄養・食生活</li> <li>3. 幼児の栄養と食生活 1)</li> <li>4. 幼児の栄養と食生活 2) 調理実習： 幼児のお弁当</li> <li>5. 小児期の栄養教育（学外学習：幼児期の食育活動）</li> <li>6. 妊娠・授乳期の栄養と食生活 1) 妊娠期の栄養と食生活</li> <li>7. “ 2) 授乳期の栄養と食生活</li> <li>8. 乳児期の栄養と食生活</li> <li>9. 学童期・思春期の栄養と食生活 1)</li> <li>10. 学童期・思春期の栄養と食生活 2)</li> <li>11. 小児の病気と食生活</li> <li>12. 障害がある小児の食生活</li> <li>13. 児童福祉施設における食生活</li> <li>14. 小児期の栄養教育</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		
テキスト	田崎裕美・中川英子編 『生活支援のための調理実習』建帛社 改訂・保育士養成講座編纂委員会/編 『小児栄養』 全国社会福祉協議会		
参考文献	講義中に適時紹介します		
成績評価の基準・方法	授業態度・小テスト・学外学習のレポート（40点）と定期試験（60点）から総合的に評価します。		
質問・相談の受付方法	メール（tazaki_11@suw.ac.jp）や口頭、リアクションペーパーでの質問・相談に、は随時対応します。授業終了後やオフィスアワーは、介護福祉棟 305 研究室で対応します。		
履修要件	なし		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他	学外学習として、小児の食育活動に関する演習があります。企画・実施・評価の各段階から、実践を通じて学びます。また、調理の基本を習得するため、食事記録や手作り弁当等の課題があります。		

科目名	福祉対話技法A	開講時期	2年 前期																																																
担当教員	石田 悦子	単位数	2																																																
テーマ	ろうあ者とのコミュニケーション																																																		
授業の概要と目的	聴覚障害者の社会参加の広がりと共に、手話のできる福祉専門職への期待は高まりつつある。ここでは、手話、聴覚障害及び聴覚障害者に関する知識を習得する。手話実技、講義を平行して進めます。																																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1 伝えあってみよう</td> <td>物の形や動きの身体表現</td> <td>講義：はじめに</td> </tr> <tr> <td>2 伝えあってみよう</td> <td>簡単な意思表示の表現</td> <td>講義：聴障者のコミ法</td> </tr> <tr> <td>3 自己紹介をしよう</td> <td>名前・指文字</td> <td>講義：耳のしくみ①</td> </tr> <tr> <td>4 自己紹介をしよう</td> <td>家族の紹介①</td> <td>講義：耳のしくみ②</td> </tr> <tr> <td>5 自己紹介をしよう</td> <td>家族の紹介②</td> <td>講義：聴覚障害の原因</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>ろうあ者とのふれあい「ろうあ者の暮らし」①</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7 自己紹介をしよう</td> <td>趣味について話そう①</td> <td>講義：耳の役割</td> </tr> <tr> <td>8 自己紹介をしよう</td> <td>趣味について話そう②</td> <td>講義：言語の獲得</td> </tr> <tr> <td>9 自己紹介をしよう</td> <td>数字を使つての会話①</td> <td>講義：集団</td> </tr> <tr> <td>10 自己紹介をしよう</td> <td>数字を使つての会話②</td> <td>講義：教育</td> </tr> <tr> <td>11 自己紹介をしよう</td> <td>仕事について話そう①</td> <td>講義：仕事</td> </tr> <tr> <td>12 自己紹介をしよう</td> <td>仕事について話そう②</td> <td>講義：運転免許</td> </tr> <tr> <td>13 自己紹介をしよう</td> <td>家、場所交通の会話</td> <td>講義：手話通訳①</td> </tr> <tr> <td>14 自己紹介をしよう</td> <td>地名、県名の手話</td> <td>講義：ろうあ者の未来①</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>総復習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>16</td> <td>学期末試験</td> <td></td> </tr> </table>			1 伝えあってみよう	物の形や動きの身体表現	講義：はじめに	2 伝えあってみよう	簡単な意思表示の表現	講義：聴障者のコミ法	3 自己紹介をしよう	名前・指文字	講義：耳のしくみ①	4 自己紹介をしよう	家族の紹介①	講義：耳のしくみ②	5 自己紹介をしよう	家族の紹介②	講義：聴覚障害の原因	6	ろうあ者とのふれあい「ろうあ者の暮らし」①		7 自己紹介をしよう	趣味について話そう①	講義：耳の役割	8 自己紹介をしよう	趣味について話そう②	講義：言語の獲得	9 自己紹介をしよう	数字を使つての会話①	講義：集団	10 自己紹介をしよう	数字を使つての会話②	講義：教育	11 自己紹介をしよう	仕事について話そう①	講義：仕事	12 自己紹介をしよう	仕事について話そう②	講義：運転免許	13 自己紹介をしよう	家、場所交通の会話	講義：手話通訳①	14 自己紹介をしよう	地名、県名の手話	講義：ろうあ者の未来①	15	総復習		16	学期末試験	
1 伝えあってみよう	物の形や動きの身体表現	講義：はじめに																																																	
2 伝えあってみよう	簡単な意思表示の表現	講義：聴障者のコミ法																																																	
3 自己紹介をしよう	名前・指文字	講義：耳のしくみ①																																																	
4 自己紹介をしよう	家族の紹介①	講義：耳のしくみ②																																																	
5 自己紹介をしよう	家族の紹介②	講義：聴覚障害の原因																																																	
6	ろうあ者とのふれあい「ろうあ者の暮らし」①																																																		
7 自己紹介をしよう	趣味について話そう①	講義：耳の役割																																																	
8 自己紹介をしよう	趣味について話そう②	講義：言語の獲得																																																	
9 自己紹介をしよう	数字を使つての会話①	講義：集団																																																	
10 自己紹介をしよう	数字を使つての会話②	講義：教育																																																	
11 自己紹介をしよう	仕事について話そう①	講義：仕事																																																	
12 自己紹介をしよう	仕事について話そう②	講義：運転免許																																																	
13 自己紹介をしよう	家、場所交通の会話	講義：手話通訳①																																																	
14 自己紹介をしよう	地名、県名の手話	講義：ろうあ者の未来①																																																	
15	総復習																																																		
16	学期末試験																																																		
テキスト	「手話教室 入門」 (財) 全日本ろうあ連盟出版局 「We Love コミュニケーション」																																																		
参考文献	授業中適宜紹介します。																																																		
成績評価の基準・方法	学期末の筆記試験で評価する。																																																		
質問・相談の受付方法	授業中に受けます。																																																		
履修要件	なし																																																		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴 講 生 【可】																																																		
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉対話技法B以降を受講したい場合は、これを履修してください。</li> <li>・地域の手話サークルへの参加をおすすめします。</li> <li>・手話検定の受験希望者は受講をおすすめします。</li> </ul>																																																		

科目名	福祉対話技法B	開講時期	2年 後期																																
担当教員	石田 悦子	単位数	2																																
テーマ	ろうあ者とのコミュニケーション																																		
授業の概要と目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉対話技法Aで学んだ事を基本に、さらにコミュニケーション能力を高める。</li> <li>・聴覚障害者の様々な生活場面での実情・課題・権利について共に考える。</li> <li>・手話実技、講義を平行してすすめます。</li> </ul>																																		
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1 前期復習</td> <td>講義：前期復習</td> </tr> <tr> <td>2 一日のことを話そう①</td> <td>講義：「聞こえる」を考える</td> </tr> <tr> <td>3 一日のことを話そう②</td> <td>講義：災害</td> </tr> <tr> <td>4 一か月のことを話そう①</td> <td>講義：家族・地域</td> </tr> <tr> <td>5 一か月のことを話そう②</td> <td>講義：松島事件</td> </tr> <tr> <td>6 ろうあ者とのふれあい「ろうあ者の暮らし」②</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7 一年のことを話そう</td> <td>講義：参政権</td> </tr> <tr> <td>8 新年会のことを話そう①</td> <td>講義：手話サークル</td> </tr> <tr> <td>9 新年会のことを話そう②</td> <td>講義：手話通訳②</td> </tr> <tr> <td>10 旅行のことを話そう①</td> <td>講義：テレビ、映像、視覚文化</td> </tr> <tr> <td>11 旅行のことを話そう②</td> <td>講義：盲ろう者</td> </tr> <tr> <td>12 明日の予定は？①</td> <td>講義：機関紙</td> </tr> <tr> <td>13 明日の予定は？②</td> <td>講義：聴覚障害者のバリアフリー</td> </tr> <tr> <td>14 お元気ですか？</td> <td>講義：ろうあ者の未来②</td> </tr> <tr> <td>15 総復習</td> <td></td> </tr> <tr> <td>16 学期末試験</td> <td></td> </tr> </table>			1 前期復習	講義：前期復習	2 一日のことを話そう①	講義：「聞こえる」を考える	3 一日のことを話そう②	講義：災害	4 一か月のことを話そう①	講義：家族・地域	5 一か月のことを話そう②	講義：松島事件	6 ろうあ者とのふれあい「ろうあ者の暮らし」②		7 一年のことを話そう	講義：参政権	8 新年会のことを話そう①	講義：手話サークル	9 新年会のことを話そう②	講義：手話通訳②	10 旅行のことを話そう①	講義：テレビ、映像、視覚文化	11 旅行のことを話そう②	講義：盲ろう者	12 明日の予定は？①	講義：機関紙	13 明日の予定は？②	講義：聴覚障害者のバリアフリー	14 お元気ですか？	講義：ろうあ者の未来②	15 総復習		16 学期末試験	
1 前期復習	講義：前期復習																																		
2 一日のことを話そう①	講義：「聞こえる」を考える																																		
3 一日のことを話そう②	講義：災害																																		
4 一か月のことを話そう①	講義：家族・地域																																		
5 一か月のことを話そう②	講義：松島事件																																		
6 ろうあ者とのふれあい「ろうあ者の暮らし」②																																			
7 一年のことを話そう	講義：参政権																																		
8 新年会のことを話そう①	講義：手話サークル																																		
9 新年会のことを話そう②	講義：手話通訳②																																		
10 旅行のことを話そう①	講義：テレビ、映像、視覚文化																																		
11 旅行のことを話そう②	講義：盲ろう者																																		
12 明日の予定は？①	講義：機関紙																																		
13 明日の予定は？②	講義：聴覚障害者のバリアフリー																																		
14 お元気ですか？	講義：ろうあ者の未来②																																		
15 総復習																																			
16 学期末試験																																			
テキスト	「手話教室 入門」 (財) 全日本ろうあ連盟出版局 「We Loveコミュニケーション」																																		
参考文献	授業中適宜紹介します。																																		
成績評価の基準・方法	学期末の筆記試験で評価します。																																		
質問・相談の受付方法	授業中に受けます。																																		
履修要件	福祉対話技法Aを履修した学生のみ受講してください。																																		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】																																		
その他																																			

科目名	福祉対話技法C	開講時期	3年 前期
担当教員	石田 悦子	単位数	2
テーマ	手話は言語		
授業の概要 と目的	手話は単なる身振りではなく、日本語、英語等と同列の言語である。 手話文法を学びつつ、手話の楽しさ、美しさを知り、コミュニケーション力を高める。実技中心で進めます。		
授業計画	テキスト、ビデオ教材にそって学びます。 1 形・動作・状況を工夫して表現しよう 2 意味をつかんで表現してみよう① 3 意味をつかんで表現してみよう② 4 意味にあった手話を選んで表現してみよう① 5 ろうあ者とのふれあい「ろうあ者の願い」① 6 意味にあった手話を選んで表現してみよう② 7 表情、強弱、速度を工夫してみよう① 8 表情、強弱、速度を工夫してみよう② 9 位置、方向を工夫しよう① 10 位置、方向を工夫しよう② 11 位置、方向を工夫しよう③ 12 位置、方向を工夫しよう④ 13 指さしを使って表現しよう① 14 指さしを使って表現しよう② 15 ビデオ「手話 この魅力ある言葉」		
テキスト	「手話教室 基礎」(財) 全日本ろうあ連盟出版局 「We Love コミュニケーション」		
参考文献	授業中適宜紹介します。		
成績評価の 基準・方法	レポート(提出状況含む)及び毎回の習得状況		
質問・相談 の受付方法	授業中に受けます。		
履修要件	福祉対話技法A、Bを履修した学生のみ受講してください。		
特別学生の 履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他			

科目名	福祉対話技法D	開講時期	3年 後期
担当教員	石田 悦子	単位数	2
テーマ	手話は言語		
授業の概要と目的	福祉対話技法Cで学んだ基本文法を応用し、さらに伝達力を高める。 実技中心です。おすすめです。		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 福祉対話技法Cの復習</li> <li>2 体の向きを変えて表現しよう①</li> <li>3 体の向きを変えて表現しよう②</li> <li>4 左右、前後、上下の空間を利用して表現してみよう①</li> <li>5 左右、前後、上下の空間を利用して表現してみよう②</li> <li>6 ろうあ者とのふれあい「ろうあ者の願い」</li> <li>7 指さしや視線を活用してみよう①</li> <li>8 指さしや視線を活用してみよう②</li> <li>9 両手を上手に使ってみよう①</li> <li>10 両手を上手に使ってみよう②</li> <li>11 指を使って表現しよう①</li> <li>12 指を使って表現しよう②</li> <li>13 同じ表現を繰り返して表そう①</li> <li>14 同じ表現を繰り返して表そう②</li> <li>15 総復習</li> </ol>		
テキスト	「手話教室 基礎」(財)全日本ろうあ連盟 「We Love コミュニケーション」		
参考文献	授業中適宜紹介します。		
成績評価の基準・方法	レポート(提出状況を含む)及び毎回の習得状況		
質問・相談の受付方法	授業中に受けます。		
履修要件	福祉対話技法A, B, Cを履修した学生のみ受講してください。		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他			

科目名	ケアマネジメント論 A	開講時期	3年 前期
担当教員	張 昌鎬	単位数	2
テーマ	ケアマネジメントに対する理解とケアプラン作成を学ぶ。		
授業の概要と目的	<p>(概要) ケアマネジメントが生まれてきた経過からケアマネジメントの必要性、目的、構造、過程を学んだ後、在宅・施設のケアプランや対象別（高齢者—介護保険、障害者、児童）のケアプランの実際を学ぶ。</p> <p>(目的) 21世紀の社会福祉の大きな流れとして、これまで以上に福祉人材の重要性が指摘されている。すなわち、医療・保健・福祉の連携のなかで新しい専門職として定着されたケアマネージャーの役割をケアマネジメントが生まれてきた経過から、ケアプランの作成・実施、在宅や施設のケアプランの事例まで学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回 ケアマネジメントの理解（ケアマネジメント定義・概要）(Learning, 1)</p> <p>第2回 ケアマネジメントの目的（ケアマネジメント誕生の背景、目的）(Learning, 2-2)</p> <p>第3回 ケアマネジメントの機能（ケアマネジメントの核心的機能、多面的機能を学ぶ）(Learning, 2-3)</p> <p>第4回 ケアマネジメントにおける社会資源（ケアマネジメントから見る社会資源、社会資源の分類と特性、社会資源の開発・改善を学ぶ）(Learning, 3)</p> <p>第5回 ケアマネジメントの利用者 (Learning, 4-5)          (介護保険とケアマネジメント、ケアマネジメントの対象の拡大を学ぶ)</p> <p>第6回 ケアマネジメントの利用者（障害者とケアマネジメント、児童領域とケアマネジメント、その他の利用者に対して学ぶ）(Learning, 4-5)</p> <p>第7回 ケアマネージャーの役割（ケアマネジメントとケアマネージャー、ケアマネジメントの機能とケアマネージャーの役割を学ぶ）(Learning, 4-6)</p> <p>第8回 ケアマネージャーの役割（ケアマネジメントの展開過程とケアマネージャーの役割に関して学ぶ）(Learning, 4-6)</p> <p>第9回 ケアマネジメントの視点（利用者主体の視点、自立支援とQOLの視点、エンパワメントの視点に関して学ぶ）(Learning, 5-7)</p> <p>第10回 ケアマネジメントの視点 (Learning, 5-7)          (ストレングスの視点、ネットワーキングの視点を学ぶ)</p> <p>第11回 生活ニーズとディマンド (Learning, 5-8)          (生活ニーズとニーズの種類、生活ニーズの把握方法に関して学ぶ)</p> <p>第12回 介護保険制度におけるケアマネジメント（介護保険制度におけるケアマネジメントの位置づけ、ケアマネジメントの実施機関等を学ぶ）(Learning, 6-9)</p> <p>第13回 介護保険制度におけるケアマネジメント (Learning, 6-9)          (介護支援専門員の定義と位置づけ、地域包括支援センターの機能を学ぶ)</p> <p>第14回 障害者施策にみるケアマネジメント（障害者自立支援法におけるケアマネジメントの位置づけ、相談支援専門委員の要件と役割を学ぶ）(Learning, 6-10)</p> <p>第15回 前期のまとめ（前期のまとめと質疑応答）</p>		
テキスト	太田貞司 外1名、ケアマネジメント Learning10 (株) みらい		
参考文献	講義中紹介する。		
成績評価の基準・方法	グループの中での積極性とレポート (配点 30 : 70) 無断欠席1回につき1点減点。		
質問・相談の受付方法	質問は、授業中いつでも良い。 相談は、授業終了後が良い。		
履修要件	なし		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他			

科目名	ケアマネジメント論 B	開講時期	3年 後期
担当教員	張 昌鎬	単位数	2
テーマ	ケアマネジメントに対する理解とケアプラン作成を学ぶ。		
授業の概要と目的	<p>(概要) ケアマネジメントが生まれてきた経過からケアマネジメントの必要性、目的、構造、過程を学んだ後、在宅・施設のケアプランや対象別（高齢者—介護保険、障害者、児童）のケアプランの実際を学ぶ。</p> <p>(目的) 21世紀の社会福祉の大きな流れとして、これまで以上に福祉人材の重要性が指摘されている。すなわち、医療・保健・福祉の連携のなかで新しい専門職として定着されたケアマネージャーの役割をケアマネジメントが生まれてきた経過から、ケアプランの作成・実施、在宅や施設のケアプランの事例まで学ぶ。</p>		
授業計画	<p>第1回 ケアマネジメントの展開過程(Learning, 7-12) (ケースの発見、アセスメント、ケアプラン作成、モニタリング、ケア会議の関係を学ぶ)</p> <p>第2回 ケースの発見 (Learning, 7-13) (ケースの発見と手続き、事例を通じて検証する)</p> <p>第3回 アセスメントの方法 (Learning, 8-14) (ニーズアセスメント視点、事例を通じて検証する)</p> <p>第4回 ケアプラン作成とケア会議 (Learning, 8-15) (ケアプラン作成とケア会議、事例を通じて検証する)</p> <p>第5回 ケアプランの実施 (Learning, 9-16) (ケアプランの実施のプロセス、事例を通じて検証する)</p> <p>第6回 ケアマネジメントの評価 (Learning, 9-17) (ケアマネジメントの質、質の評価、評価結果の情報公開、地域包括支援センターとケアマネジメント、事例を通じて検証する)</p> <p>第7回～9回 ケアマネジメント演習 (資料) (在宅高齢者の事例を持って、コンピューターを通じてケアプラン作成を学ぶ)</p> <p>第10回～12回 ケアマネジメント演習 (資料) (施設高齢者の事例を持って、コンピューターを通じてケアプラン作成を学ぶ)</p> <p>第13回～14回 ケアマネジメント演習 (資料) (障害者の事例を持って、コンピューターを通じてケアプラン作成を学ぶ)</p> <p>第15回 ケアマネジメントの未来と展望 (資料)</p>		
テキスト	太田貞司 外1名、ケアマネジメント Learning10 (株) みらい		
参考文献	講義中紹介する。		
成績評価の基準・方法	グループの中での積極性とレポート (配点 30 : 70) 無断欠席1回につき1点減点。		
質問・相談の受付方法	質問は、授業中いつでも良い。 相談は、授業終了後が良い。		
履修要件	なし		
特別学生の履修の可否	科目等履修生【可】 聴講生【可】		
その他			